勉誠出版

歴史学研究会　会員様対象
特別割引のご案内

全品20%OFF

割引クーポンコード：8afa226c3f
（期限：～2021年6月30日）

謹啓

初夏の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

https://bensei.jp

各種クレジットカード、paypal（クレジットカード・デビットカード）でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード：8afa226c3f（期限：～2021年6月30日）

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。

・3,000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス
（※3,000円未満の場合は、300円を頂戴いたします。海外への配送に関しては、実費を頂戴します）

＊ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
歴史学研究会の会員であることをお知らせください。

●ご連絡先

Mail　info@bensei.jp
電話　03-5215-9021
FAX　03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。

最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。

新刊書籍一覧　注文書

＊割引価格は税込です。

ISBN	書名	編著者	出版年	本体価	割引価格	注文数
◆新刊・近刊						
32502-4	元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉　編	2021/6	3,200	2,816	
31001-3	中世寺院の仏法と社会	永村眞　編	2021/5	12,000	10,560	
31002-0	創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音　著	2021/6	8,000	7,040	
30002-1	書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫　編	2021/6	16,000	14,080	
22277-4	古文書への招待	日本古文書学会　編	2021/1	3,000	2,640	
22280-4	増補改訂新版　日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世　編	2021/2	3,800	3,344	
22289-7	渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民　編	2021/2	14,000	12,320	
22300-9	中世の博多とアジア	伊藤幸司　著	2021/2	9,500	8,360	
22301-6	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修　著	2021/2	9,000	7,920	
22297-2	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一　編	2021/2	3,800	3,344	
32000-5	勤番武士の江戸滞在記―国枝外右馬江戸詰中日記	岩淵令治　編	2021/5	10,000	8,800	
82254-7	パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴　編	2021/5	4,800	4,224	
22140-1	新装版　唐物と東アジア―船載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹　編	2016/2	2,000	1,760	
20077-2	中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明　著	2020/12	15,000	13,200	
20078-9	アーネスト・サトウと蔵書の行方―『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰　著	2020/11	4,200	3,696	
27058-4	明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏　著	2021/1	3,500	3,080	
22299-6	土地の記憶から読み解く早稲田―江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーロリ　著／大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ　訳	2021/3	2,700	2,376	
32501-7	東アジアにおける知の往還【アジア遊学 255】	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院　共編	2021/3	2,800	2,464	
32500-0	東アジアの歌と文字【アジア遊学 254】	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉　編	2021/3	2,800	2,464	
38000-9	日本語文字論の挑戦―表記・文字・文献を考えるための 17 章	加藤重広・岡墻裕剛　編	2021/3	7,000	6,160	
21057-3	大嘗祭―隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎　編	2021/1	3,800	3,344	
29202-9	和漢朗詠集とその享受　増訂版	三木雅博　著	2021/1	15,000	13,200	
29199-2	中世和歌論―歌学と表現と歌人	中川博夫　著	2020/11	12,000	10,560	
29204-3	真田幸弘点取百韻　翻刻と解題	玉城司・小幡伍　編著	2021/2	9,000	7,920	
29200-5	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪―民俗学的視点に基づく考察	山崎藍　著	2020/11	9,000	7,920	
29203-6	観相の文化史	相田満　著	2021/2	9,000	7,920	
30001-4	大宅壮一文庫解体新書―雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志　編	2021/5	3,500	3,080	
22295-8	ラジオの技術・産業の百年史―大衆メディアの誕生と変遷	岡部匡伸　著	2020/12	5,400	4,752	
20074-1	日本の図書館建築―建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜　編	2021/3	3,500	3,080	
20284-4	新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス 5】	時実象一　監修／久永一郎　責任編集	2020/5	2,500	2,200	
31000-6	パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生―歴史・信仰・空間から考える	坂野正則　編	2021/3	8,000	7,040	
22296-5	メソアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸　監修／嘉幡茂・村上達也　編	2021/1	5,000	4,400	
24014-3	絶滅危惧種を喰らう	秋道智彌・岩崎望　編	2021/1	3,200	2,816	
32001-2	首里城を解く―文化財継承のための礎を築く（仮）	高良倉吉　監修／島村幸一　編	2021/7	3,800（予価）	3,344（予価）	
32401-0	古文書研究　第 91 号	日本古文書学会　編	2021/7	3,800	3,344	
32503-1	交錯する宗教と民族―交流と衝突の比較史【アジア遊学 257】	鹿毛敏夫　編	2021/7	2,800	2,464	
29612-6	中国史書入門　現代語訳　北斉書	氣賀澤保規　監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之　訳	2021/ 夏	6,000	5,280	
◆既刊						
22279-8	古代の日本と東アジア―人とモノの交流史	鈴木靖民　著	2020/7	10,000	8,800	
22278-1	新羅中古期の史的研究	武田幸男　著	2020/7	12,000	10,560	
22288-0	金沢文庫古文書　喫茶関係編年資料集	永井晋　編	2020/9	10,000	8,800	
22272-9	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲　編／国立歴史民俗博物館　監修	2020/2	7,800	6,864	

20073-4	日本の表装と修理	岩﨑奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人　編	2020/3	7,000	6,160	
22268-2	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人　著	2020/2	17,000	14,960	
22276-7	近世大名墓の考古学―東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明　編	2020/6	12,000	10,560	
22290-3	生きるための地域史―東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志　編	2020/10	8,000	7,040	
22266-8	日本近世社会と町役人	望月良親　著	2020/2	6,000	5,280	
22265-1	近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容―北奥地域の事例研究	鈴木淳世　著	2020/2	10,000	8,800	
22267-5	近世都市の常態と非常態―人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス　編	2020/2	7,000	6,160	
20076-5	江戸庶民のまじない集覧―創意工夫による生き方の智恵	長友千代治　著	2020/10	6,000	5,280	
22269-9	江戸日本橋商人の記録―〈にんべん〉伊勢屋髙津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則　編	2020/3	11,000	9,680	
21056-6	儒教儀礼と近世日本社会―闇斎学派の『家礼』実践	松川雅信　著	2020/7	10,000	8,800	
22261-3	甦る「豊後切支丹史料」―バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行　編	2020/2	12,000	10,560	
29197-8	琉球船漂着者の「聞書」世界―『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一　編	2020/3	10,000	8,800	
22257-6	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子　著	2020/2	10,000	8,800	
22292-7	挑発する軍記	大津雄一　著	2020/10	3,800	3,344	
22291-0	吉田松陰と学人たち	徳田武　著	2020/10	10,000	8,800	
20072-7	医学・科学・博物　東アジア古典籍の世界	陳捷　編	2020/2	12,000	10,560	
22286-6	ロマノフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子　監修／牧野元紀　編	2020/8	3,800	3,344	
22275-0	スイス使節団が見た幕末の日本―ブレンワルド日記 1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会　編	2020/6	9,800	8,624	
29196-1	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正　著	2020/2	10,000	8,800	
22285-9	新彰義隊戦史―附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」	大藏八郎　編	2020/11	7,000	6,160	
23081-6	「本読み」の民俗誌―交叉する文字と語り	川島秀一　著	2020/6	3,500	3,080	
22263-7	渋沢敬三とアチック・ミューゼアム―知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治　著	2020/1	3,500	3,080	
20075-8	司書のお仕事 2―本との出会いを届けます【ライブラリーぶっくす】	大橋崇行　著／小木曾真貴　監修	2020/11	1,800	1,584	
22264-4	荒れ野の六十年―東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤　著	2020/1	3,200	2,816	
27055-3	日本画の所在―東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮　編	2020/4	6,500	5,720	
22069-5	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘　著	2020/6	4,500	3,960	
22262-0	描かれたマカオ―ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇　編	2020/4	22,000	19,360	
21054-2	メディアのなかの仏教―近現代の仏教的人間像	森覚　編	2020/5	7,500	6,600	
21055-9	上海におけるプロテスタント―現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保　著	2020/5	6,000	5,280	
22513-3	ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ　【現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ 2】	石田勇治・川喜田敦子　編	2020/9	6,000	5,280	
22514-0	ドイツ市民社会の史的展開　【現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ 3】	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史　編	2020/9	6,000	5,280	
22719-9	ポストコロナ時代の東アジア―新しい世界の国家・宗教・日常　【アジア遊学 253】	玄武岩・藤野陽平　編	2020/9	2,800	2,464	
22718-2	中世日本の茶と文化―生産・流通・消費をとおして　【アジア遊学 252】	永井晋　編	2020/9	2,800	2,464	
22717-5	仏教の東漸と西漸　【アジア遊学 251】	荒見泰史　編	2020/9	2,800	2,464	
22716-8	酔いの文化史―儀礼から病まで　【アジア遊学 250】	伊藤信博　編	2020/8	2,800	2,464	
22715-1	漢学とは何か―漢唐および清中後期の学術世界　【アジア遊学 249】	川原秀城　編	2020/7	2,800	2,464	
22714-4	明治が歴史になったとき―史学史としての大久保利謙　【アジア遊学 248】	佐藤雄基　編	2020/6	2,800	2,464	
20718-4	書物学　第 18 巻　蔵書はめぐる―海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部　編	2020/7	1,800	1,584	

お申し込みは

Web Site◉**https://bensei.jp**

FAX◉**03-5215-9025**

E-mail◉**info@bensei.jp**

勉誠出版

〒 101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2 丁目 18-4

TEL 03-5215-9021

ご氏名	**備考欄** ＊公費・私費の区別をお知らせください ＊公費の場合には、必要書類・宛名・日付の有無をお書きください
ご住所	
電話番号	

新刊のご案内

元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 【アジア遊学256】

詳細チラシもご覧ください



櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉［編］

冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらに元朝をめぐる学問史を検討する。

本体3,200円（＋税）・A5判並製・322頁・ISBN32502-4・2021年6月刊行

中世寺院の仏法と社会

詳細チラシもご覧ください



永村眞［編］

寺院に伝持された史料群を読み解くことにより、中世において寺院や仏法が果たした役割を描き出し、寺院社会の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

本体12,000円（＋税）・A5判上製・544頁・ISBN31001-3・2021年6月刊行

創られた由緒 近世大和国諸社と在地神道家

詳細チラシもご覧ください



向村九音［著］

大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝の創出を企図した彼が、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出し、またその言説が、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのかを探る。

本体8,000円（＋税）・A5判上製・288頁・ISBN31002-0・2021年6月刊行

書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史

詳細チラシもご覧ください



藤本幸夫［編］

流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する35名の珠玉の執筆者の知見を集結、394点に及ぶ図版資料を収載した日中韓の知の世界を彩る書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

本体16,000（＋税）・B5判上製・896頁・ISBN30002-1・2021年6月刊行

古文書への招待

詳細チラシもご覧ください



日本古文書学会［編］

古代から近代にわたる全45点の古文書を丹念に読み解くことで、古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、書かれた背景をなす歴史的事件を解明。カラー図版をふんだんに配し、全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した恰好の古文書入門！

本体3,000円（＋税）・B5判並製・176頁・ISBN22277-4・2021年1月刊行

増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう

詳細チラシもご覧ください



秋山哲雄・田中大喜・野口華世［編］

歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介。歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。2014年5月に刊行の『日本中世史入門―論文を書こう』を大幅に増補改訂！

本体3,800円（＋税）・A5判並製・608頁・ISBN22280-4・2021年2月刊行

渤海の古城と国際交流

詳細チラシもご覧ください

清水信行・鈴木靖民［編］

冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。30年に亘る国際共同研究より得た知見から最新の成果を提示する画期的論集。

本体14,000円（＋税）・B5判上製・496頁・ISBN22289-7・2021年2月刊行



中世の博多とアジア

詳細チラシもご覧ください

伊藤幸司［著］

中世の博多を特徴づける「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

本体9,500円（＋税）・A5判上製・564頁・ISBN22300-9・2021年2月刊行



戦国合戦図屏風の歴史学

詳細チラシもご覧ください

高橋修［著］

「川中島合戦図屏風」「長篠・長久手合戦図屏風」「関ヶ原合戦図屏風」など、主要作品20数点を、歴史学の視点から丹念に読み解き、図像的特徴や成立背景、写本の普及と合戦像の定着、後世の評価について明らかに。長年にわたる合戦図屏風研究の集大成。

本体9,000円（＋税）・A5判上製・528頁・ISBN22301-6・2021年2月刊行



鷹狩の日本史

詳細チラシもご覧ください

福田千鶴・武井弘一［編］

五世紀の古墳時代から江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、鷹狩は権力と深く結びつきながら日本列島において連綿と続けられてきた。日本史を貫く重要な要素でありながら、等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

本体3,800円（＋税）・A5判並製・368頁・ISBN22297-2・2021年2月刊行



勤番武士の江戸滞在記 国枝外右馬江戸詰中日記

詳細チラシもご覧ください

岩淵令治［編］

天保改革期に臼杵藩士が、参勤交代で江戸勤番の間に書き残した一年分の日記史料の全編を初めて活字化。140点に及ぶ挿絵とともに紹介する。新たな江戸像を描き出す貴重史料。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・512頁・ISBN32000-5・2021年5月刊行



パブリック・ヒストリー入門

【オンデマンド新版】

好評につき重版！

詳細チラシもご覧ください

菅豊・北條勝貴［編］

歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える日本初の概説書！

本体4,800円（＋税）・A5判並製・カラー8頁＋本文504頁・ISBN82254-7・2021年5月刊行



新装版　唐物と東アジア 舶載品をめぐる文化交流史

好評につき重版！

河添房江・皆川雅樹［編］

唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

本体2,000円（＋税）・A5判並製・208頁・ISBN22140-1・2016年2月刊行



中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明［著］

詳細チラシもご覧ください



多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

本体15,000円（＋税）・A5判上製・880頁・ISBN20077-2・2020年12月刊行

アーネスト・サトウと蔵書の行方

『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって

小山騰［著］

詳細チラシもご覧ください



『増補浮世絵類考』は、作者の斎藤月岑の死後、サトウの所蔵をへて、ケンブリッジ大学図書館にたどり着くまでの期間、どのような変遷をたどったのか。写本として受け継がれた『浮世絵類考』の全般にかかわる問題にも言及しつつ、その謎を追う。

本体4,200円（＋税）・四六判上製・464頁・ISBN20078-9・2020年11月刊行

明治の一発屋芸人たち 珍芸四天王と民衆世界

永嶺重敏［著］

詳細チラシもご覧ください



「ステテコ」の円遊、「ヘラヘラ」の万橘、「ラッパ」の円太郎、「テケレツ」の談志。全国的な熱狂を引き起こしたにもかかわらず、歴史の狭間に消えた「珍芸四天王」たちの実像に迫る！明治前期の民衆世界を炙り出す刺激的な一冊。

本体3,500円（＋税）・四六判上製・284頁・ISBN227058-4・2021年1月刊行

土地の記憶から読み解く早稲田

江戸・東京のなかの小宇宙

ローザ・カーロリ［著］／大内紀彦、フィリッポ・ドルネッティ［訳］

詳細チラシもご覧ください



早稲田という「小宇宙（ミクロコスモ）」から、江戸・東京という「大宇宙（マクロコスモ）」を描く。膨大な文献・史料・地図の博捜と現地踏査から土地の文化的・歴史的価値を発見する、もうひとつの江戸・東京学。

本体2,700円（＋税）・四六判並製・272頁・ISBN22299-6・2021年3月刊行

東アジアにおける知の往還 【アジア遊学255】

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院［共編］

詳細チラシもご覧ください



第一章「書物と文化」、第二章「記録と記憶」、第三章「都市という舞台」の構成により、文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

本体 2,800円（＋税）・A5判並製・200頁・ISBN32501-7・2021年3月刊行行

東アジアの歌と文字 【アジア遊学254】

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉［編］



東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料・伝承記録を、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・208頁・ISBN32500-0・2021年3月刊行

日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章

加藤重広・岡墻裕剛［編］

詳細チラシもご覧ください



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。古代から現代までを視野に「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、日本語における「文字論」の豊穣な世界を示す初めての一冊。

本体7,000円（＋税）・A5判並製・432頁・ISBN38000-9・2021年3月刊行

大嘗祭　隠された古層

工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎［編］

アニミズム的原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたらよいのか。大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

本体3,800円（＋税）・四六判並製・296頁・ISBN21057-3・2021年1月刊行



和漢朗詠集とその享受　増訂版

三木雅博［著］

『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂による復刊。

本体15,000（＋税）・A5判上製・480頁・ISBN29202-9・2021年1月刊行



中世和歌論　歌学と表現と歌人

中川博夫［著］

和歌と勅撰集のあり方を方向づけた俊成や定家。彼らの和歌観を直接・間接に選択・継承し、和歌のあり方を模索していった為家や京極派。王朝和歌から連なる中世和歌の史的変遷を丁寧に紐解き、個々の特質と連続性を多面的に明らかにする待望の一書。

本体12,000円（＋税）・A5判上製・496頁・ISBN29199-2・2020年11月刊行



真田幸弘点取百韻　翻刻と解題

玉城司・小幡伍［編著］

真田宝物館（長野市松代町）が収蔵する松代藩第六代藩主・真田幸弘（菊貫）が同座した点取俳諧資料集『菊の分根』の百韻・五十八巻を原本に忠実に翻刻。詳細な解題・解説を附す。国語学、地方と中央を結ぶ歴史学、風俗研究等に大きく寄与する一書。

本体9,000円（＋税）・A5判上製・ 308頁・ISBN29204-3・2021年2月刊行



中国古典文学に描かれた厠・井戸・簀

民俗学的視点に基づく考察

山崎藍［著］

中国古典文学に描かれる厠や井戸、それにまつわる道具や、井戸の周囲などを「めぐる」という行為には、どのような観念が存在していたのか。従来、等閑視されてきた民俗学的視点から、詩歌研究の新たな可能性を探る快著。

本体 9,000円（＋税）・A5判上製・336頁・ISBN29200-5・2020年11月刊行



観相の文化史

相田満［著］

人相占いに代表される「観相」の知識体系が、文学・絵画等の表現活動にどのような影響を及ぼしてきたか。古典的相書の記述と関連資料の分析により「忘れられた日本の学問」の具体相の把握、継承性と応用の可能性を追究することを試みる。

本体9,000円（＋税）・A5判上製・280頁・ISBN29203-6・2021年2月刊行



大宅壮一文庫解体新書 雑誌図書館の全貌とその研究活用

阪本博志［編］

大宅壮一（1900-1970）が収集した膨大な雑誌のコレクションを基礎として設立された大宅壮一文庫。2021年、開設から50年を迎える大宅壮一文庫について、概要から、その誕生の歴史、そして文庫を活用した研究の実践例まで、すべてを網羅した解説書。

本体3,500（＋税）・A5判並製・300頁・ISBN30001-4・2021年5月刊行



ラジオの技術・産業の百年史 大衆メディアの誕生と変遷

好評につき重版！

岡部匡伸［著］

日本ラジオ博物館の膨大なコレクションの写真を掲載しつつ、ラジオの発明から戦時下の国家による統制・管理の時代を経て、戦後の娯楽メディアとしての興隆、インターネットの影響によるラジオの変容まで、100年の歴史を追う。

本体5,400円（＋税）・A5判上製・550頁・ISBN22295-8・2020年12月刊行



日本の図書館建築 建築からプロジェクトへ

五十嵐太郎・李明喜［編］

「箱モノ」から、コミュニケーションなどを重視した「有機的なモノ」へと変化を遂げた日本の公共図書館。1950年代から、2020年代の現在まで、全国各地の特色ある公共図書館を紹介し、図書館建築の歴史的流れを追った一冊。カラー図版200点以上！

本体3,500（＋税）・A5判並製・336頁・ISBN20074-1・2021年3月刊行



新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス5】

時実象一［監修］／久永一郎［責任編集］

デジタルアーカイブが産業の未来を切り拓く！　日本の企業はデジタルアーカイブをどのように利活用し、それをビジネスに昇華しているのか？「デジタルアーカイブ・ベーシックス」全5巻、ここに完結！

本体2,500円（＋税）・A5判並製・208頁・ISBN20285-1・2021年5月刊行



パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生

詳細チラシもご覧ください

歴史・信仰・空間から考える

坂野正則［編］

複数の年代にまたがる絵画作品、図面、大聖堂の写真といった豊富なビジュアル資料とともに、キリスト教神学・建築史学・西洋史学・文化財学による領域横断的なアプローチにより、「ノートル＝ダム大聖堂」の歴史、その復興・再生を考察する。

本体8,000円（＋税）・A5判上製・288頁・ISBN31000-6・2021年3月刊行



メソアメリカ文明ゼミナール

伊藤伸幸［監修］／嘉幡茂・村上達也［編］

メソアメリカ文明を研究する、総執筆者22名の気鋭の研究者たちが、各自が専門とする地域や分野について詳細に記述した初めての概説書。37本のコラムを収録し、代表的な遺跡や事項を、簡潔に解説。

本体5,000円（＋税）・B5判並製・530頁・ISBN22296-5・2021年1月刊行



絶滅危惧種を喰らう

秋道智彌・岩崎望［編］

幕野生動物を絶滅から救うために、我々は何をすべきなのか。野生動物を「喰らう」問題、「装う」問題、そしていかにして野生動物を絶滅から救うかについての方策とよりどころとなる思想について多角的な視点から論じる。

本体3,200円（＋税）・A5判並製・264頁・ISBN24014-3・2021年1月刊行



近刊のご案内

＊表示価格には別途消費税がかかります。
＊ISBN は 978-4-585 を省略しています。

首里城を解く 文化財継承のための礎を築く（仮）

近刊

高良倉吉［監修］／島村幸一［編］

2019 年（令和元年）10 月 31 日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

予価本体3,800円（＋税）・A5判並製・320頁・ISBN32001-2・2021年7月刊行

NO IMAGE

古文書研究　第91号

詳細チラシもご覧ください　近刊

日本古文書学会［編］

古文書学の最前線を伝える学術雑誌。論文、史料紹介・追悼文・古文書めぐり、随筆、書評と紹介などを収録。
【執筆者】佐藤亜莉華・松井直人・村上絢一・金子修一・山内譲・遠藤珠紀・丸島和洋・桐田貴史・湯川敏治・木下昌規・荊木美行・武井紀子・徳竹亜紀子・近藤好和・松本郁代・高銀美・黒嶋敏・田部井隼人・福井淳・佐々木千恵・荒木和憲

本体3,800円（＋税）・B5判並製・162頁・ISBN32401-0・2021年6月刊行

NO IMAGE

交錯する宗教と民族 【アジア遊学257】

交流と衝突の比較史

詳細チラシもご覧ください　近刊

鹿毛敏夫［編］

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される「国家」意識の具体的深層に迫る。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・224頁・ISBN32503-1・2021年7月刊行

NO IMAGE

中国史書入門　現代語訳　北斉書

詳細チラシもご覧ください　近刊

氣賀澤保規［監修］／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之［訳］

異民族が中原に進出し、群雄割拠した南北朝時代。王朝が成立しては滅亡を繰り返した時代。日本でも有名な雅楽「蘭陵王入陣曲」、その蘭陵王・高長恭が活躍した北斉の正史『北斉書』を本邦初現代語訳！原文と現代語訳を対照できる。

本体6,000円（＋税）・A5判並製・680頁・ISBN29612-6・2021年夏刊行



櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉……編

元朝の歴史

モンゴル帝国期の東ユーラシア

【アジア遊学256】

一二〇六年、チンギス・カンの即位により成立した大モンゴル国は、その後継者たちにより、ユーラシア大陸全土へその版図を広げていった。その後、皇位争いに勝利し、国号を「大元」と改めた世祖クビライが一二七九年に南宋を攻略したことにより、中国史に新たな統一王朝の名を刻むこととなる――元朝である。中国史における「元朝」とはいかなる存在であったのか――冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらには元朝をめぐる学問史を検討することにより、新たな元朝史研究の起点を示す。

【目次】

カラー口絵……『書史会要』（台湾国家図書館蔵洪武九年刊本）ほか
序言◉**櫻井智美**
導論――クビライ登極以前のモンゴル帝国の歴史◉**渡辺健哉**
元朝皇帝系図
本書所載論稿関係年表
元朝皇帝一覧

Ⅰ　元代の政治・制度
元代「四階級制」説のその後――「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって◉**舩田善之**
ジャムチを使う人たち――元朝交通制度の一断面◉**山本明志**
元代の三都（大都・上都・中都）とその管理◉**渡辺健哉**
江南の監察官制と元初の推挙システム◉**櫻井智美**
【コラム】カラホト文書◉**赤木崇敏**
【コラム】元代における宮室女性の活躍◉**牛　瀟**
元末順帝朝の政局――後至元年間バヤン執政期を中心に◉**山崎　岳**

Ⅱ　元代の社会・宗教
元代の水運と海運――華北と江南はいかにして結びつけられたか◉**矢澤知行**
モンゴル朝における道仏論争について――『至元辯偽録』に見える禅宗の全真教理解◉**松下道信**
元版大蔵経の刊行と東アジア◉**野沢佳美**
【コラム】南宋最後の皇帝とチベット仏教◉**中村　淳**
【コラム】夷狄に便利な朱子学――朱子学の中華意識と治統論◉**垣内景子**
回顧されるモンゴル時代――陝西省大荔県拝氏とその祖先顕彰◉**飯山知保**

Ⅲ　伝統文化とその展開
「知」の混一と出版事業◉**宮　紀子**
白樸の生涯と文学◉**土屋育子**
「元代文学」を見つめるまなざし◉**奥野新太郎**
景徳鎮青花瓷器の登場――その生産と流通◉**徳留大輔**

Ⅳ　元朝をめぐる国際関係
『朴通事』から広がる世界◉**金　文京**
日元間の戦争と交易◉**中村　翼**
日元間の僧侶の往来規模◉**榎本　渉**
モンゴル帝国と北の海の世界◉**中村和之**
元と南方世界◉**向　正樹**

Ⅴ　研究の進展の中で
書き換えられた世界史教科書――モンゴル＝元朝史研究進展の所産◉**村岡　倫**
史料の刊行から見た二十世紀末日本の元朝史研究◉**森田憲司**
【コラム】チンギス・カンは源義経ではない――同一人物説に立ちはだかる史実の壁◉**村岡　倫**
【コラム】モンゴル時代の石碑を探して――桑原隲蔵と常盤大定の調査記録から◉**渡辺健哉**
【コラム】『混一疆理歴代国都之図』の再発見◉**渡邊　久**

【編者紹介】

櫻井智美（さくらい・さとみ）
明治大学文学部准教授。専門は宋元史、モンゴル帝国史。主な論文に「曹彬不嗜殺人――元代における曹彬故事の採用とバヤンの評価」（『明大アジア史論集』二三、二〇一九年）などがある。

飯山知保（いいやま・ともやす）
早稲田大学文学学術院教授。専門は中国華北社会史。主な著書に『金元時代の華北社会と科挙制度――もう一つの「士人層」』（早稲田大学出版部、二〇一一年）などがある。

森田憲司（もりた・けんじ）
奈良大学名誉教授。専門は中国近世社会文化史。主な著書に『概説中国史　上下』（共編、執筆、昭和堂、二〇一六年）などがある。

渡辺健哉（わたなべ・けんや）
大阪市立大学大学院文学研究科教授。専門は元代都城史・近代における日中学術交流史。主な著書に『元大都形成史の研究――首都北京の原型』（東北大学出版会、二〇一七年）などがある。

定価3,520円（税込）
本体3,200円
A5判並製カバー装・322頁
ISBN978-4-585-32502-4　C1322
2021年6月刊行

書　名	部数
元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 【アジア遊学No.256】 櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉［編］ 定価3,520円（税込） A5判並製カバー装・322頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32502-4 C1322	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

日本中世史・仏教史

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、
貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、
政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。
しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、
その特質からアクセスが容易ではなく、
編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、
近年、大きな研究の進展を見せるようになった。
畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する
史料群の博捜により、寺内・寺外の僧俗の
社会的かつ宗教的な関わりのなかで、
「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した
寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、
中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

中世日本を読み解くための必読の書

【編者紹介】

永村 眞（ながむら・まこと）

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。

著書に『中世東大寺の組織と経営』（塙諸房、一九八九年）、『中世寺院史料論』（吉川弘文館、二〇〇〇年）、『中世醍醐寺の仏法と院家』（吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

定価一三、二〇〇円（税込）
（本体一二、〇〇〇円）
A5判上製カバー装・六四〇頁
二〇二一年五月刊行
ISBN978-4-585-31001-3 C3015

【目次】

はしがき…永村 眞

I 醍醐寺の法流と修学
中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀…永村 眞
南北朝内乱と清浄光院房玄…石田浩子
南北朝期から室町前期における理性院流と太元帥法別当職の相承
——理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立——…佐藤亜莉華
醍醐寺三宝院門跡満済の教学活動…姜 錫正
醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流
——尾張国万徳寺を通して——…藤井雅子
「義演准后日記」とその紙背文書…関口真規子
修法と秘号——五大虚空蔵法を通して——…井上清子
醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点…高橋恵美子

II 寺院の法会と社会
中世南都の法華会…高山有紀
「春日権現験記絵」の編纂者…坪内綾子
中世東寺の修学活動——西院と観智院——…西 弥生
十五世紀における北野社領西京と西京神人…三枝暁子
春日社神供備進と興福寺学侶…高山京子
室町将軍家の比丘尼御所と根本所領…小谷量子

III 中世の仏法と寺院
摂関期・院政期における聖徳太子信仰と女性
——四天王寺に集った女性たち——…榊原史子
鎌倉前期寺院社会の禅宗理解…矢野立子
中世「律院」と「結界」…飯田晶子
中世鑁阿寺の寺内組織…中田 愛
雑賀衆の戦いと鈴木孫一…三浦早織
あとがき…藤井雅子

書名	部数
中世寺院の仏法と社会 永村 眞【編】 定価13,200円（税込）・本体12,000円 A5判・上製カバー装・640頁 2021年5月刊行 ISBN978-4-585-31001-3 C3015	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

書物・印刷・本屋

日中韓をめぐる本の文化史

図版点数390超

藤本幸夫〈編〉

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究　集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡〈鑑〉研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究　史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版――坊刻本――の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。

書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、

書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

◉第一部――書物のかたち・書物のジャンル
◉第二部――印刷・活字・技術
◉第三部――本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

◉書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
◉書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
◉学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
◉390点を超える貴重な図版資料を収載。

定価一七、六〇〇円（税込）
（本体一六、〇〇〇円）
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

執筆者一覧――

◉第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
◉第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
◉第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名		部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫［編］	部

定価17,600円・本体16,000円
B5判上製カバー装・896頁
2021年6月刊行
ISBN978-4-585-30002 C3000

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版　※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

書物・印刷・本屋
日中韓をめぐる本の文化史

藤本幸夫［編］

定価一七、六〇〇円・本体一六、〇〇〇円
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行・ISBN978-4-585-30002-1 C3000

〈詳細目次〉

序文……藤本幸夫

◉第一部——書物のかたち・書物のジャンル

佐々木孝浩……〈古写本〉日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子……〈江戸版〉初期出版界の様相
木村八重子……〈草双紙〉「草双紙」の史的展望
棚橋正博……〈黄表紙〉黄表紙
佐藤至子……〈合巻〉合巻における自主規制——『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ
鈴木圭一……〈中本（人情本）〉中本」編三冊意識
石上阿希……〈春画・艶本〉「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一……〈錦絵〉錦絵とは
湯浅淑子……〈おもちゃ絵〉江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸……〈草紙類〉上方の草紙類をめぐって
万波寿子……〈仏書〉日本の仏書
鈴木達彦……〈医書〉日本漢方の特質と日本医書

◉第二部——印刷・活字・技術

住吉朋彦……〈宋版・元版〉宋元版研究の道程
堀川貴司……〈五山版〉五山版をどう考えるか
長澤孝三……〈和刻本〉「和刻本」について
豊島正之……〈キリシタン版〉キリシタン文献
林進……〈古活字版〉角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明……〈古活字版〉古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修……〈古活字版〉古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段……〈出版史料としての反古〉東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔音義』表紙の復原的考察
渡辺守邦……〈出版史料としての反古〉表紙裏反古・再考
橋口侯之介……〈彫りと摺り〉彫師・摺師から見た日本の出版形態
永井一彰……〈版木〉板木の節

◉第三部——本屋・商業出版・蔵書

鈴木俊幸……〈日本近世の本屋〉本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
塩村耕……〈日本近世前期の商業出版〉近世前期の出版界と西鶴
長友千代治……〈貸本屋〉貸本屋の横顔
岡村敬二……〈蔵書・蒐書（日本）〉蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉……〈蔵書・蒐書（日本）〉田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉……〈日中韓の商業出版〉日中韓坊刻本の比較研究或いは此等三か国書物の比較研究のために
大木康……〈中国の商業出版〉中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高……〈中国の商業出版〉坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京……〈中国の商業出版〉明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一……〈中国の商業出版〉明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
髙橋智……〈蔵書・蒐書（中国）〉中国の蔵書家について
藤本幸夫……〈朝鮮の商業出版〉朝鮮坊刻本攷
李胤錫……〈朝鮮の商業出版〉朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相昱……〈朝鮮の商業出版〉坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……藤本幸夫
執筆者一覧

創られた由緒
近世大和国諸社と在地神道家

向村九音〈著〉

「古え」は、いかにして語られたのか——

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになると、社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家（神学者）であった。石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

【目次】

第一章　今出河一友概説
第二章　今出河一友による石上神宮由緒記の生成—「家の由緒」との連関
第三章　『大三輪神三社鎮座次第』の成立と言説の共有
附　論　『大乗院寺社雑事記』を中心に見る率川神社——中世期に形成された像と機能
第四章　『大倭神社注進状並率川神社記附裏書』に見る大和国諸社の由緒再編
第五章　近世期穴師神社における由緒生成と古伝の「再発見」
第六章　近世における石上神宮鎮魂祭儀礼次第生成の位相
結び　今出河一友著作・書写本の一覧
附表Ⅰ　大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧
附表Ⅱ　國學院大學図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』
翻刻資料
参考文献一覧・あとがき・初出一覧・索引

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士（文学）。現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世～近世の文学。主な論文に「『大乗院寺社雑事記』を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」（『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語文化学会、二〇一六年）、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」（『説話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年）などがある。

定価八、八〇〇円（税込）
［本体八、〇〇〇円］
A5判上製カバー装・二八八頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書　名	部　数
創られた由緒 近世大和国諸社と在地神道家 向村九音〈著〉 定価8,800円（税込） 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

日本古文書学会〈編〉

古文書への招待

過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、
豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……
過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？
古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、
古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、
書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。
また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、
「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、
全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した
恰好の古文書入門！

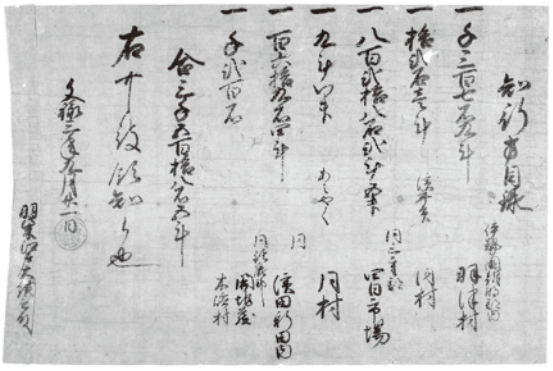
本体三、〇〇〇円（+税）
B5判並製カバー装・一七六頁（フルカラー）
二〇二一年一月刊行
ISBN978-4-585-22277-4 C1021

収録

〈1〉かたち
長屋王家符
他田日奉部直神護解
太政官符
源頼朝寄進状
伊賀国黒田荘悪党人縁者交名
武雄社大宮司都々亀丸代藤原通厚軍忠状
足利義滿書状案
足利義教自筆御内書
東寺款状
羽柴秀吉制札
徳川家康起請文
豊臣秀吉朱印状
開帳差免帳
交代寄合山名義蕃書置

〈2〉ひと
僧正聖宝置文
平清盛請文
北条時政請文
源頼朝書状
北条政子書状
東大寺大勧進重源自筆書状
高麗渤海関係某書状
藤原為家譲状
足利尊氏御判御教書
沙弥恵尊（小田孝朝）書状
足利義維御内書
武田信玄自筆願文
織田信長印判状
豊臣秀吉知行方目録
三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文
薩長同盟覚書裏書（坂本龍馬筆）

〈3〉できごと
太政官符写
源実朝袖判下文
右馬允康経書状
某書状案断簡
護良親王令旨
大蔵大輔某奉書
足利尊氏御判御教書
征西将軍宮令旨
今川了俊書下
栖雲斎歳阿書状
白川義親書状
丹羽長秀書状
毛利輝元起請文案
黒田如水（孝高）書状
五箇条の御誓文



豊臣秀吉知行方目録
関地蔵院所蔵
［画像提供・亀山市歴史博物館］

書　名	部　数
古文書への招待 日本古文書学会［編］ 本体3,000円（+税） B5判並製カバー装・176頁 2021年1月刊行 ISBN978-4-585-22277-4 C1021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版　千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/　FAX◉03-5215-9025

増補改訂新版

日本中世史入門
論文を書こう

国士舘大学文学部教授
秋山哲雄・
国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学准教授
田中大喜・
共愛学園前橋国際大学教授
野口華世〈編〉

2014年刊行の
日本中世史入門
好評につき、
大幅増補・改訂して
近日刊行！
240頁増！

歴史を学び、考えるために——

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか——歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適！

まえがき…秋山哲雄・田中大喜・野口華世
Ⅰ「歴史学」を学ぶということ
Ⅱ 論文を書こう——歴史学研究の方法を学ぶ
Ⅲ 日本中世史研究の現在
中世摂関家論◉中世的権門としての摂関家…高松百香
院政論◉政治史と家族史の融合…佐伯智広
平家政権論◉平家政権論の軌跡とこれから…前田英之
中世前期国家財政論◉税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために…守田逸人
荘園史研究◉中世天皇家の荘園の意味を考える…野口華世
中世武士論◉中世武士のとらえ方はどう変わったか…伊藤瑠美
鎌倉幕府論◉中世の特質を明らかにする…秋山哲雄
鎌倉幕府文士論◉鎌倉幕府を支える様々な人々…赤澤春彦
鎌倉期守護論◉幕府による全国統治の実態に迫る…西田友広
中世前期法制史研究◉鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし…木下竜馬
鎌倉幕府御家人制論◉鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したもの…清水　亮
中世武士団論◉中世の武士と社会の特質を考える…田中大喜
朝廷下級官人論◉朝廷を支える官僚システム…遠藤珠紀
室町殿論◉新たなる権力者像の〈発見〉…大田壮一郎
室町期守護論◉室町期守護論の「これまで」と「これから」…大藪　海
中世後期法制史研究◉室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質…松園潤一朗
中世寺院史◉中世寺院と顕密体制を考える…石田浩子
中世村落・環境史◉生活の舞台としての村落をどうとらえるか…高木徳郎
中世交通・流通論◉水陸のみちを考える…藤本頼人
中世経済史◉中世人の生活を探る…川戸貴史
中世都市論◉都市の輪郭について考える…三枝暁子
中世身分論◉身分と集団から中世社会を考える…辻　浩和
中世東国史研究◉地域史と国家史のあわいで…植田真平
中世日本・東アジア交流史◉外国との関わりを考える…伊川健二
中世日本境界領域論◉東アジア交流の玄関口としての境界領域…荒木和憲
古文書学を学ぶ人のために◉史料論の時代における古文書学の可能性…佐藤雄基
中世絵画史料論◉絵画にかくされたもうひとつの日本文化…黒田　智
中世考古資料論◉中世考古学の方法…村木二郎
執筆者一覧
あとがき——増補改訂版の刊行に寄せて…秋山哲雄・田中大喜・野口華世
研究概念・用語索引

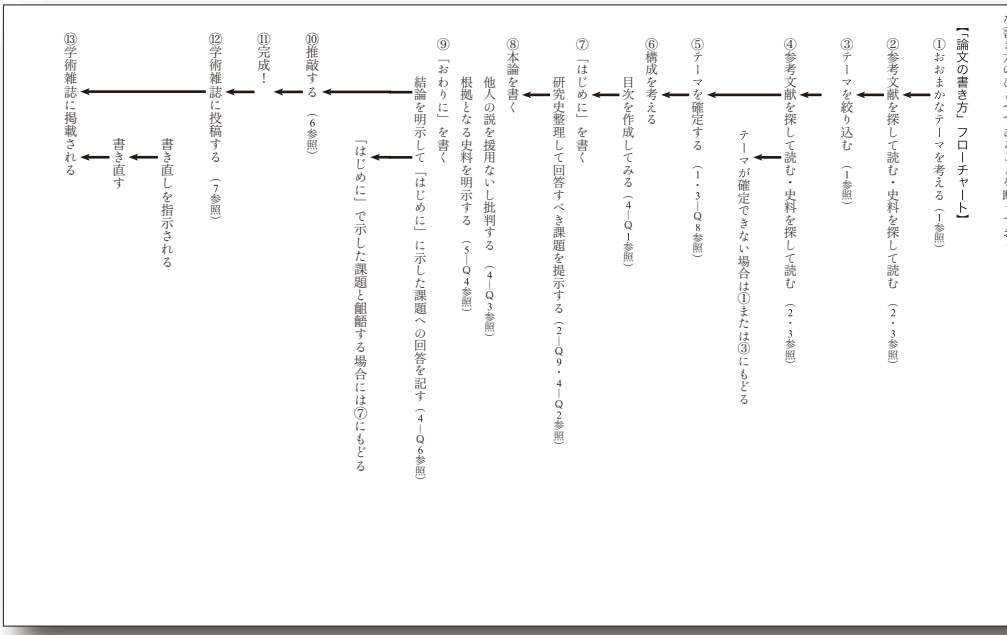
本体二、八〇〇円（+税）
A5判並製カバー装
六〇八頁・二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

書　名	部数
増補改訂版 **日本中世史入門——論文を書こう** **秋山哲雄・田中大喜・野口華世**〈編〉 本体3,800円（+税） A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

「Ⅱ 論文を書こう」では、
論文執筆から投稿までのプロセスをフローチャートでわかりやすく紹介。
各段階で押さえておきたいポイントはQ&A方式で詳しく説明。



はじめに

論文を書くという作業は、これまで進めてきた研究を文章としてまとめて新見を学界に問い、学問の進展に寄与することである。それだけに論文は、すぐに書けるものではない。ねばりづよく参考文献や史料と向き合ってテーマを絞り、どうすれば自分の主張を説得力のあるものにできるかを熟慮して構成を考え、史料を深く読み込んで我田引水とならないよう本論を慎重に書き進め、読者に自分の意図が伝わるよう丁寧に文章を推敲し、全体に矛盾がないかを広い視野で見直して、ようやく書き上がるものである。

おおまかなフローチャートを左に示したので、まずはこれを参照しながら、後につづく項目を読み進めていただきたい。迷ったら、面倒でもそれぞれの項目を何度でも確認していけば、必ずや納得できる論文を書き上げることができるはずである。

なお、論文を書く方法は幾通りもあるだろうし、人によっても異なる。ここで示すのは、その中の一般的な書き方のひとつであることを断っておく。

【論文の書き方」フローチャート】

①おおまかなテーマを考える（1参照）
↓
②参考文献を探して読む・史料を探して読む（2・3参照）
↓
③テーマを絞り込む（1参照）
↓
④参考文献を探して読む・史料を探して読む（2・3参照）
↓
テーマが確定できない場合は①または③にもどる
↓
⑤テーマを確定する（1・3―Q8参照）
↓
⑥構成を考える
目次を作成してみる（4―Q1参照）
↓
⑦「はじめに」を書く
研究史整理して回答すべき課題を提示する（2―Q9・4―Q2参照）
↓
⑧本論を書く
他人の説を援用ないし批判する（4―Q3参照）
根拠となる史料を明示する（3―Q4参照）
↓
⑨「おわりに」を書く
結論を明示して「はじめに」に示した課題への回答を記す（4―Q6参照）
↓
「はじめに」で示した課題と齟齬する場合には⑦にもどる
↓
⑩推敲する（6参照）
↓
⑪完成！
↓
⑫学術雑誌に投稿する（7参照）
↓
書き直しを指示される
↓
書き直す
↓
⑬学術雑誌に掲載される

◉頁見本

4 構成を考える

Q1 書く前にまずやることは？

1でテーマを決め、2・3でそのテーマに関する参考文献や史料を読んだら、ようやく論文を執筆できる段階となる。論文を書く前には、まず全体の目次を考えることをお勧めする。目次は、当然のことながら、書き進めていくうちに変わることもあるが、最初におおまかな目次（＝「流れ」）を考えておくと、論文の筋道が整理できて、わかりやすい論文を書くことができる。

目次は、「はじめに→本論→おわりに」という構成をとることが多い。本論は、3章から4章の構成にすると、書きやすいだろう。また、それぞれの章の中を、さらにいくつかの節にわけると、読む側・書く側の双方にとって、わかりやすい内容になる。たとえば、【例1】～【例3】のような目次が考えられる。

すでに読んだ参考文献や史料を、どの章や節で引用するのかを考えながら目次をふくらませていけば、論文の形に近づいていくはずである。まずは目次をじっくりと考えよう。

【例1】

「武士団結合の複合的展開と公武権力」
はじめに
第一章 族縁的結合と地域的結合
第一節 鎌倉期武士団の一族結合
第二節 本領の形成と地域的結合
第三節 町場と地域的結合
第四節 小括
第二章 一族結合と惣領制
第一節 惣領制の形成と展開
第二節 惣領職の成立
第三節 家督と惣領
第四節 小括
第三章 南北朝・室町期の武士団と荘園制
第一節 南北朝内乱と領域的所領の形成
第二節 室町幕府の戦争＝荘園政策と武士団
第三節 室町期の荘園制と惣領制
第四節 小括
おわりに

【例2】

「鎌倉と鎌倉幕府」
はじめに
第一章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」過程
第一節 鎌倉幕府の成立と鎌倉
第二節 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」
第三節 小括
第二章 鎌倉の求心力
第一節 裁許の求心力
第二節 経済の求心力
第三節 宗教の求心力
第四節 小括
第三章 鎌倉の多核化
第一節 将軍求心力の変化
第二節 鎌倉の「地子」と「地主」
第三節 鎌倉の「宿所」
第四節 小括
おわりに

【例3】

「中世前期公家社会の変容」
はじめに
第一章 女院領とその意義
第一節 女院領の成立
第二節 御願寺の継承とその意義
第三節 小括
第二章 鎌倉前期の知行者と後鳥羽院
第一節 鎌倉期の安嘉門院による継承
第二節 後鳥羽院による知行者の改替
第三節 知行者改替の要因とその影響
第四節 承久の乱後の知行者の論理
第五節 小括
第三章 鎌倉後期の知行者の再編
第一節 安楽寿院の再編
（1）亀山院による知行者の再配置
（2）知行者再配置の意味
第二節 安楽寿院領知行者のその後
第三節 知行者の家領形成
第四節 小括
おわりに

Q2 「はじめに」で書くべきことは？

「はじめに」では、論文で扱うテーマに関する研究史の整理を行う。研究史整理を通して、現時点までに明らかにされてきたこと、そして現時点で課題として残されていることを、自分なりにまとめることになる。これによって、論文の課題を明示することができるのである。

研究史整理は、論文を書くにあたってのもっとも重要な出発点であり、準備は入念に行わなければならない。準備の際に必要な参考文献（先行研究）や史料の収集については、2・3を参照のこと。

もし「はじめに」で提示した課題が、結論と齟齬することがあれば、結論にあわせて「はじめに」を書き直そう。ただし、最終的に書き直すことになるとしても、論文を書いている最中に方向性を見失わないように、まずは「はじめに」から書きはじめた方が無難だろう。

なお、これまで研究がなされていないテーマで論文を書くこともあるだろう。その場合には、研究史がないことを指摘したうえで、なぜそのテーマを研究すべきなのか、その意義を記そう。

◉頁見本

1 テーマを決める

Q1…レポートと論文の違いは？
Q2…テーマを決める要素は？
Q3…論文にふさわしくないテーマは？
Q4…興味を持っていることが絞れないときは？
Q5…主要な通史類・講座類は？
Q6…最近の研究動向を知るには？
Q7…テーマを決める方法は？

2 参考文献を読む

Q1…参考文献とは？
Q2…ふさわしい書籍とは？
Q3…書籍を探すには？
Q4…研究論文とは？
Q5…学術雑誌とは？
Q6…研究論文を探すには？
Q7…研究論文を入手するには？
Q8…参考文献の読み方は？
Q9…参考文献を読むときに気をつけることは？
Q10…参考文献を活用するには？

3 史料を読む

Q1…史料とは？
Q2…古文書を探すには？
Q3…古記録や編纂物を探すには？
Q4…地域の史料を集めるには？
Q5…史料を読む前にすることは？
Q6…史料を読むには？
Q7…史料を読むときに気をつけることは？
Q8…参考文献と史料を読んだ後は？

4 構成を考える

Q1…書く前にまずやることは？
Q2…「はじめに」で書くべきことは？
Q3…本論で目指すことは？
Q4…本論で気をつけることは？
Q5…史料などを適切に引用するには？
Q6…「おわりに」で注意すべきことは？

5 注（註）をつける／史料を引用する

Q1…なぜ注をつけるのか？
Q2…どのようなときに注をつけるのか？
Q3…先行研究を引用する場合の注のつけ方は？
Q4…史料を引用する場合の注のつけ方は？
Q5…史料を引用する際に注意すべきことは？
Q6…一次史料と二次史料の違いは？

6 推敲する

Q1…推敲するとは？
Q2…文章を見直すときのポイントは？――その1 字句など――
Q3…文章を見直すときのポイントは？――その2 文章・段落の長さ――
Q4…誤解されない文章を書くには？

7 投稿しよう

Q1…どうやって投稿するのか？
Q2…投稿すれば必ず掲載されるのか？

7つの段階に対応した43のQ&A

東洋史（古代東アジア）・考古学

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民［編］

本体14,000円（+税）
B5判上製カバー装・496頁
2021年1月刊行
ISBN978-4-585-22289-7・C3020

考古学・文献史学より「海東の盛国」の実態を明らかにする画期的論集

7世紀末から10世紀前半、中国東北部・ロシア沿海地方・朝鮮半島北部にまたがり展開した渤海国。
唐や日本など周辺諸国との交易で栄え、
当時の東アジア情勢において「海東の盛国」と称されるほどの古代国家であったが、
資・史料的制約により、長らくその具体的な様相を詳らかに把捉することが困難であった。
しかし、冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、
渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。
30年に亘る考古学・文献史学の国際共同研究より得た知見から最新の研究成果を提示する画期的論集。

【目次】

序言◉清水信行・鈴木靖民
第Ⅰ部◉渤海の統治制度と国際交流
第Ⅱ部◉クラスキノ古城の機能と性格
第Ⅲ部◉沿海地方渤海遺跡の出土遺物
あとがき◉清水信行
執筆者一覧／索引（人名索引・地名索引・事項索引）

※詳細目次は裏面をご覧ください。

【執筆者一覧（掲載順）】

清水信行	澤本光弘	V.I.ボルディン
鈴木靖民	宋基豪	酒寄雅志
金子修一	田村晃一	中澤寛将
浜田久美子	小嶋芳孝	E.I.ゲルマン
赤羽目匡由	A.L.イヴリエフ	N.V.レシチェンコ

［編者紹介］

清水信行（しみず・のぶゆき）
1949年生まれ。㈶東洋文庫研究員（非常勤）、青山学院大学文学部名誉教授。専門は日本考古学。
著書に『論集　沿海州渤海古城　クラスキノ古城の機能と性格』（編著、青山学院大学清水研究室、2013年）、『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』（編著、青山学院大学清水研究室、2017年）、論文に「韓国論山郡開泰寺出土銘文瓦についての一考察」（『日本考古学』五、日本考古学協会、1998年）、「渤海上京龍泉府出土の平瓦・丸瓦」（田村晃一編『東アジアの都城と渤海』東洋文庫論叢第64、㈶東洋文庫、2005年）などがある。

鈴木靖民（すずき・やすたみ）
1941年生まれ。横浜市歴史博物館館長、淑徳大学客員教授、國學院大學名誉教授。専門は日本古代史・東アジア古代史。
著書に『日本の古代国家形成と東アジア』（吉川弘文館、2011年）、『倭国史の展開と東アジア』（岩波書店、2012年）、『比較史学への旅―ガリア・ローマから古代日本へ』（勉誠出版、2012年）、『梁職貢図と東部ユーラシア世界』（編著、勉誠出版、2014年）、『日本古代の周縁史』（岩波書店、2014年）、『相模の古代史』（高志書院、2014年）、『古代日本の東アジア交流史』（勉誠出版、2016年）、『日本古代交流史入門』（編著、勉誠出版、2017年）、『古代の日本と東アジア　人とモノの交流史』（勉誠出版、2020年）などがある。

書　名	部数
渤海の古城と国際交流 清水信行・鈴木靖民［編］ 本体14,000円（+税） B5判上製カバー装・496頁 2021年1月刊行 ISBN978-4-585-22289-7・C3020	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民【編】

本体 14,000 円（＋税）
B5判上製カバー装・496頁
ISBN 978-4-585-22289-7・C3020
2021年1月刊行

【目次】

序言◉清水信行・鈴木靖民

第Ⅰ部◉渤海の統治制度と国際交流

交易の視角からみた渤海国◉**鈴木靖民**
渤海をめぐる唐代の国際関係◉**金子修一**
渤海の外交文書――王啓を中心に◉**浜田久美子**
渤海の中央官制と地方制度◉**赤羽目匡由**
燕雲地域の漢人と滅亡以降の渤海人――〈陳万墓誌〉〈耶律宗福墓誌〉〈高爲裘墓誌〉など遼代石刻をてがかりに◉**澤本光弘**
六頂山古墳群の性格と渤海建国集団◉**宋基豪（清水信行訳）**
〔研究ノート〕渤海墓研究の検討――鄭永振の研究を中心に◉**清水信行**
渤海王陵・貴族墓論（その2）◉**田村晃一**

第Ⅱ部◉クラスキノ古城の機能と性格

渤海時代のロシア沿海地方◉**小嶋芳孝**
考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格◉**田村晃一**
クラスキノ古城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究◉**A.L.イヴリエフ・V.I.ボルディン（清水信行訳）**
沿海地方クラスキノ古城――歴史から見た特徴と機能◉**A.L.イヴリエフ（垣内あと訳）**
Nature and function of Kraskino walled town in Primorye region through the historical viewpoint◉**A.L.Ivliev（translation by A.L.Ivliev）**
渤海平地城とクラスキノ城跡――ポシエト湾周辺遺跡群の評価◉**小嶋芳孝**
クラスキノ古城と塩州◉**酒寄雅志**
〔コラム〕クラスキノ古城発掘調査30年と ロ・日共同調査◉**V.I.ボルディン（垣内あと訳）**
Retrospective glance on 30 years of excavation of Kraskino ancient town and beginning of cooperation with Japanese archaeologists ◉**V.Boldin（translation by A.L.Ivliev）**
クラスキノ古城発掘調査記◉**清水信行**

第Ⅲ部◉沿海地方渤海遺跡の出土遺物

クラスキノ城址出土土器の特質とその意義◉**中澤寛将**
クラスキノ古城の土器◉**E.I.ゲルマン（垣内あと訳）**
Pottery of Kraskinskoye walled town◉**E.I.Gelman（translation by E.I.Gelman）**
沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察◉**清水信行**
クラスキノ古城における特殊な遺構――瓦の側壁を持つ地下式竪穴状遺構 ◉**V.I.ボルディン・E.I.ゲルマン・N.V.レシチェンコ・A.L.イヴリエフ（清水信行訳）**
渤海の金属製カンザシ◉**小嶋芳孝**
渤海・女真代城郭城門の研究◉**E.I.ゲルマン（垣内あと訳）**

あとがき◉**清水信行**

執筆者一覧

索引（人名・機関名索引／地名・史跡名索引／事項名索引（国家名・民族名含む））

中世の博多とアジア

伊藤幸司【著】

中世日本における国際交流の最前線

中世日本においてアジアへの窓口であり、
アジアにおける日本への窓口でもあった博多。
アジアの海商が来航する博多での貿易活動は、
民間取引や国家外交など、
多様で広範な国際交流のなかで展開されていた。
また、博多で展開する宗教勢力は、こうした国際交流と
密接不可分の状況で展開し、その影響はネットワークを
通じて広く列島の各所にも及んでいた。
中世の博多をもっとも特徴付ける要素である「貿易」と
「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最
大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市
であった博多の実像に迫る。
国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する
新知見を提示する画期的な一書。

【著者紹介】
伊藤幸司（いとう・こうじ）
九州大学大学院比較社会文化研究院教授。
専門は日本中世史・東アジア交流史。
著書に『中世日本の外交と禅宗』（吉川弘文館、二〇〇二年）、『日明関係史研究入門』（共編著、勉誠出版、二〇一五年）、『室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる』（責任編集、大内氏歴史文化研究会編、勉誠出版、二〇一九年）などがある。

【目次】

カラー口絵
凡　例
序　章　中世博多研究の潮流

第一部◎貿易都市博多
第一章　港町複合体としての中世博多湾
第二章　中世博多の海商と海の道――南島路をめぐって
第三章　日朝関係における偽使の時代――博多商人の視角から
第四章　中世後期の博多とアジア

第二部◎宗教都市博多
第五章　宗教都市博多の中世――寺社を中心として
第六章　博多と鎌倉――鎌倉時代の日本禅宗界
第七章　首羅山・油山と東アジア
第八章　中世の崇福寺をめぐって
第九章　博多聖福寺と臨済宗幻住派

第三部◎博多の史料研究
第一〇章　聖福寺古図と承天寺古図――描かれた戦国時代の博多
第一一章　湖心碩鼎『頤賢録』について
終　章　アジアのなかの港市博多

史料編◎湖心碩鼎『頤賢録』
凡　例
『頤賢録』乾
『頤賢録』坤

初出一覧
研究費使用一覧
あとがき
掲載図表一覧
参考文献一覧
索　引



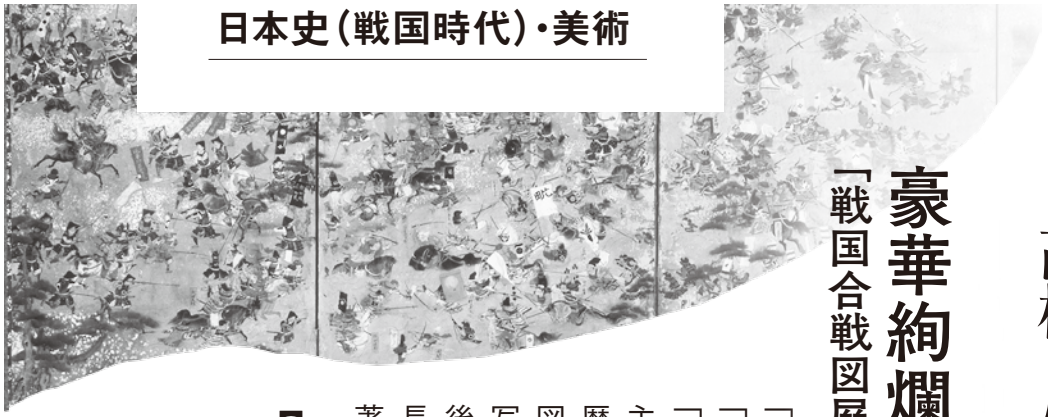
本体九、五〇〇円（+税）
A5判・上製カバー装
口絵四頁＋本文五六〇頁
二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22300-9　C3020

書　名	部　数
中世の博多とアジア　伊藤幸司［著］ 本体9,500円（+税） A5判・上製カバー装 カラー口絵4頁＋本文560頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22300-9 C3020	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

日本史（戦国時代）・美術



戦国合戦図屏風の歴史学

高橋　修【著】

豪華絢爛！細密の極致！

「戦国合戦図屏風」はなぜ作られたのか？

「川中島合戦図屏風」
「長篠・長久手合戦図屏風」
「関ヶ原合戦図屏風」など、
主要作品20数点を、
歴史学の視点から丹念に読み解き、
図像的特徴や成立背景、
写本の普及と合戦像の定着、
後世の評価について明らかにする。
長年、合戦図屏風を追究してきた
著者による研究成果の集大成。

図版点数 223点

【著者紹介】

高橋　修（たかはし・おさむ）

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本中世史。主要著書に『中世武士団と地域社会』（清文堂出版、二〇〇〇年）、『図説 戦国合戦図屏風の世界』（監修、学研、二〇〇二年）、『【異説】もうひとつの川中島合戦――川中島合戦図屏風の発見』（洋泉社、二〇〇七年）、『熊谷直実 中世武士の生き方』（吉川弘文館、二〇一四年）、『信仰の中世武士団――湯浅一族と明恵』（清文堂出版、二〇一六年）などがある。

【目次】

カラー口絵
序　論…「戦国合戦図屏風」の世界

第Ⅰ部◎「川中島合戦図屏風」と甲越軍学

第一章…紀州本「川中島合戦図屏風」と紀州徳川家
第二章…軍学者宇佐美定祐について
　――紀州本「川中島合戦図屏風」の周辺
第三章…甲越軍学の軌跡
　――山本勘助と宇佐美駿河守を生みだしたもの
［補説］…享保二年（一七一七）四月十五日付
　栗林次郎左衛門（政盛）宛大河原重祐要門流印可状
第四章…山本勘助と『甲陽軍鑑』
［補説一］…狩野文庫の杉山家資料
［補説二］…「武田信玄配陣図屏風」と「武田信玄本陣之図」について
第五章…米沢市上杉博物館蔵「川中島合戦図屏風」
　――画面構成と成立背景
第六章…ミュージアム中仙道蔵「川中島合戦図屏風」の
　図像的特徴と成立背景――公武協調の時代と「上杉謙信」

第Ⅱ部◎「長篠・長久手合戦図屏風」

第七章…「長篠・長久手合戦図屏風」の概要と論点
第八章…「長久手合戦図屏風」の成立と展開
第九章…「長篠合戦図屏風」を読む
第十章…尾張・紀伊両徳川家における小牧・長久手合戦の研究と顕彰
第十一章…豊田市郷土資料館蔵「長篠・長久手合戦図屏風」の
　図像的特徴と成立背景

第Ⅲ部◎「合戦図屏風」の諸相

第十二章…「賤ヶ岳合戦図屏風」と『川角太閤記』
第十三章…「蔚山合戦図屏風」（「朝鮮軍陣図屏風」）の成立と展開
第十四章…和歌山県立博物館蔵「壬辰倭乱図屏風」について
第十五章…「関ヶ原合戦図屏風」の概要と研究の現状
第十六章…解題「長谷堂合戦図屏風」
第十七章…「湊川合戦図屏風」の世界
第十八章…「結城合戦絵詞」とは何か
補　論…その他の作品の手引き
総　論…総括と課題
戦国合戦図屏風所在一覧
あとがき／初出一覧／索　引

本体9,000円（+税）
A5判・上製カバー装
カラー口絵32頁+本文496頁
ISBN978-4-585-22301-6　C3021
2021年2月発売

書　名	部　数
戦国合戦図屏風の歴史学 高橋　修［著］ 本体9,000円（+税） A5判・上製カバー装 カラー口絵32頁+本文496頁 2021年2月発売 ISBN978-4-585-22301-6 C3021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

鷹狩（たかがり）の日本史

福田千鶴・武井弘一［編］

知られざるヒトとタカの関係史

飼い慣らした鷹を自在に操り、獲物を捕らえる狩猟、鷹狩。
五世紀の古墳時代から
江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、
鷹狩は権力と深く結びつきながら
日本列島において連綿と続けられてきた。
そこには、日本の風土や社会のなかで
地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて
独自に発展してきた固有の歴史が存在する。
日本史を貫く重要な要素でありながら、
等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、
新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。



編者プロフィール

福田千鶴（ふくだ・ちづる）
一九六一年生まれ。九州大学基幹教育院教授。鷹・鷹場・環境研究会代表。専門は日本近世史。著書に『幕藩制的秩序と御家騒動』（校倉書房、一九九九年）、『徳川綱吉』（山川出版社、二〇一〇年）、『近世武家社会の奥向構造』（吉川弘文館、二〇一八年）、『城割の作法』（吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

武井弘一（たけい・こういち）
一九七一年生まれ。琉球大学国際地域創造学部准教授。鷹・鷹場・環境研究会副代表。専門は日本近世史。著書に『鉄砲を手放さなかった百姓たち』（朝日新聞出版、二〇一〇年）、『江戸 日本の転換点』（NHK出版、二〇一五年）、『茶と琉球人』（岩波書店、二〇一八年）などがある。

本体三、八〇〇円（＋税）
A5並製カバー装・三六八頁
二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22297-2 C1021

目次

序　章　鷹狩の日本史◎福田千鶴

第1部　古代から近世までの通史的展開
第1章　古代日本の鷹狩◎森田喜久男
第2章　中世日本の鷹狩◎中澤克昭
第3章　近世日本の鷹狩◎武井弘一
【コラム1】鷹・馬・犬からみた生類憐みの令◎兼平賢治
【コラム2】山林原野の明治維新と御猟場◎江藤彰彦

第2部　鷹と人との関係史
第4章　鷹の種類と調教◎福田千鶴
【コラム3】琉球の鷹狩儀礼と生態系◎武井弘一
第5章　鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人との関わり◎久井貴世
第6章　琵琶湖の水鳥猟と鷹場◎東　幸代
【コラム4】鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境◎来見田博基
第7章　越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩◎渡部浩二
第8章　大洲藩の狩――御鷹野場と生業◎東　昇
第9章　尾張藩家臣の鷹場――鷹場は人々の生活にどう関わったか◎山﨑久登
【コラム5】「さだ六とシロ」の物語◎福田千鶴

第3部　日本列島における鷹の諸相
第10章　「御鷹」の献上・下賜◎越坂裕太
【コラム6】「御鷹」拝領と「御鷹」飼捉飼――武鑑を糸口に◎藤實久美子
第11章　松前藩と鷹鳥屋場知行◎榎森　進
【コラム7】将軍の鷹と馬◎兼平賢治
第12章　盛岡藩の鷹と巣鷹の捕獲◎中野渡一耕
【コラム8】参勤交代にみる鷹の役割◎来見田博基
第13章　南九州における鷹巣山について――米良山を中心に◎大賀郁夫

第4部　鷹狩文化を担った人々
第14章　鷹詞と有職故実◎大坪　舞
第15章　鷹狩の絵画――近世初期における鷹狩への眼差し◎水野裕史
第16章　鍋島勝茂と鷹◎伊藤昭弘
第17章　鷹匠として生きる武士たち◎堀田幸義
【コラム9】江戸における鷹匠の交流◎岩淵令治
第18章　鷹書と出版文化◎藤實久美子
【コラム10】越境する鷹狩文化――中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界◎相馬拓也

あとがき◎武井弘一
執筆者紹介◎掲載図版一覧◎鷹狩年表◎索　引



書　名	部　数
鷹狩の日本史 福田千鶴・武井弘一［編］ 本体3,800円（＋税） A5判・並製・カバー装・368頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22297-2 C1021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

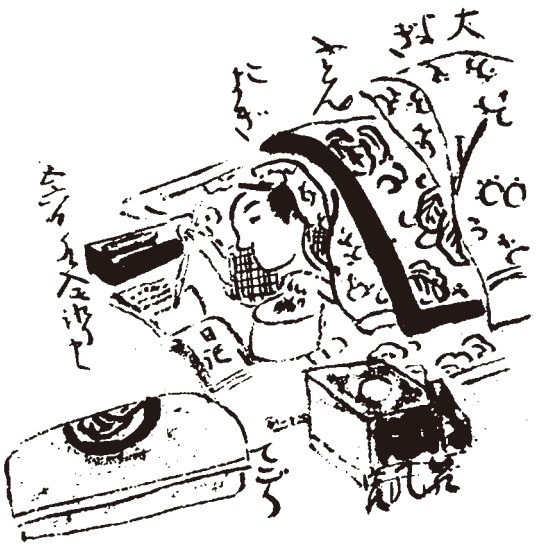
勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

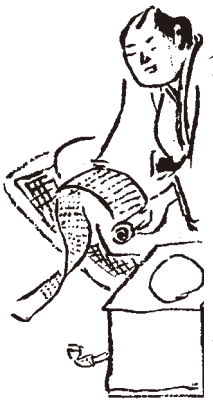
勤番武士の江戸滞在記

きんばんぶしのえどたいざいき

国枝外右馬江戸詰中日記

くにえだとうまえどづめちゅうにっき





新たな江戸像を描き出す貴重史料

天保改革期に臼杵藩士・国枝外右馬が、参勤交代で江戸勤番の間に書き残した一年分の日記史料の全編を初めて活字化。一四〇点に及ぶ挿絵とともに紹介する。四十代にして初めて見る江戸の様子や、自分の仕事ぶりを息子たちに伝える生き生きと愛らしい絵入りの詳細な記述は、研究史料として稀有なだけでなく、専門家以外の読者にも江戸の人々を身近に感じさせる興味深い史料である。外からやってきた勤番武士による江戸の報告は、地元の人間が発信するものとは異なる新たな江戸像を示すものとなるだろう。

本書の構成

カラー口絵
序文・凡例
【日記翻刻】
国枝外右馬江戸詰中日記　第一冊
　天保十三年四月～九月朔日ゟ十四日迄
国枝外右馬江戸詰中日記　第二冊
　九月十四日夕ゟ晦日迄～天保十四年五月
【解説】
解題―岩淵令治
国枝外右馬とその周辺
　放送大学千葉学習センター「古文書を読む会」
挿絵一覧・あとがき



定価一一、〇〇〇円（税込）［本体一〇、〇〇〇円］・A5判上製カバー装・五一二頁（＋カラー一六頁）・二〇二一年五月刊行・ISBN978-4-585-32000-5 C3021

岩淵令治〈編〉

（いわぶち・れいじ）一九六六年生まれ。学習院女子大学国際文化交流学部教授。専門は日本近世都市史。著書に『江戸武家地の研究』（塙書房、二〇〇四年）、『史跡で読む日本の歴史』9（編著、吉川弘文館、二〇一〇年）、『「江戸」の発見と商品化』（編著、岩田書院、二〇一四年）、論文に「巨大都市江戸における居住者と自己認識」（渡辺浩一／ヴァネッサ・ハーディング編『自己語りと記憶の比較都市史』勉誠出版、二〇一五年）、「江戸における鷹匠の交流」（福田千鶴・武井弘一編『鷹狩の日本史』勉誠出版、二〇二一年）などがある。

書　名	部数
勤番武士の江戸滞在記 国枝外右馬江戸詰中日記 岩淵令治〈編〉 定価11,000円（税込）・本体10,000円 A5判上製カバー装・512頁（＋カラー口絵16頁） 2021年5月刊行 ISBN978-4-585-32000-5 C3021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版　※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

【オンデマンド新版】

パブリック・ヒストリー入門

開かれた歴史学への挑戦

菅豊・北條勝貴［編］

本体四、八〇〇円（＋税）
A5判並製
カラー八頁＋本文五〇四頁
二〇二一年三月刊行
ISBN978-4-585-82254-7 C1021

［目次］

Ⅰ 理論 Theories
Ⅱ 実践 Practices
歴史家とは誰か？
Who is the Historian?
協働
Collaboration
オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー
Oral History and Writing History
ミュージアムとアーカイブズ
Museums and Archives
デジタル・パブリック・ヒストリー
Digital Public History
アートと歴史映写
Art and Historiophoty

「歴史」は、誰のものか——

人びとが語り、紡いできた歴史、
そして、人びとが歴史とともに、
歴史を糧に生きていくという行為に目を向け、
学問と社会の対話を目指す「パブリック・ヒストリー」は、
いま世界的な広がりを見せている学問分野である。
歴史学や社会学、文化人類学のみならず、
文化財レスキューや映画製作等、
さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、
歴史を生きる営みを紹介。
人間と歴史との関わりを考え、
日常に活かしていくための
知識と方法を伝える貴重な一冊。

パブリックヒストリーを考えるための
日本初の概説書！

［編者紹介］

菅 豊（すが・ゆたか） 一九六三年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府、東洋文化研究所教授。専門は民俗学。著書に『川は誰のものか——人と環境の民俗学』（吉川弘文館、二〇〇六年）、『人と動物の日本史3——動物と現代社会』（編著、吉川弘文館、二〇〇九年）、『「新しい野の学問」の時代へ——知識生産と社会実践をつなぐために』（岩波書店、二〇一三年）などがある。

北條勝貴（ほうじょう・かつたか） 一九七〇年生まれ。上智大学文学部教授。専門は東アジア環境文化史。著書に『環境と心性の文化史』上・下（共編著、勉誠出版、二〇〇三年）、『寺院縁起の古層——注釈と研究』（共編著、法藏館、二〇一五年）、『歴史を学ぶ人々のために——現在をどう生きるか』（共著、岩波書店、二〇一七年）などがある。

【執筆者一覧】

菅豊◉北條勝貴◉中澤克昭◉俵木悟
◉西村明◉市川秀之◉及川祥平
◉宮内泰介◉加藤幸治◉加藤圭木
◉金子祥之◉石井弓◉金菱清◉川田牧人
◉西村慎太郎◉小山亮◉村上忠喜
◉後藤真◉渡邉英徳◉塚原伸治
◉飯田高誉◉青原さとし◉今井友樹

書名	部数
パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 菅豊・北條勝貴［編］ 本体4,800円（＋税） A5判並製・カラー8頁＋本文504頁 2021年3月刊行 ISBN978-4-585-82254-7 C1021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

パブリック・ヒストリー入門
開かれた歴史学への挑戦

❖もくじ

口　絵

菅　豊◉序文　パブリック・ヒストリー――現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性

Ⅰ　理論　Theories

菅　豊◉パブリック・ヒストリーとはなにか？

北條勝貴◉〈ありのままの事実〉を支えるもの――近代日本における歴史実践の多様性

中澤克昭◉プラクティカル・パストと日本史――中世歴史実践史ノート

Ⅱ　実践　Practices

《歴史家とは誰か？　*Who is the Historian?*》

俵木　悟◉歴史と芸――神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践

西村　明◉いまに生きる、いまに生かす歴史的空間における歴史実践
――「Oターン郷土誌家」を目指して

市川秀之◉滋賀県下の字誌にみる歴史実践

及川祥平◉〈コラム〉「武田家属将美名録」はなぜ配られたのか――ある末裔の歴史実践

《協働　*Collaboration*》

宮内泰介◉「八重子の日記」をめぐる歴史実践

加藤幸治◉更地と工事現場からの文化創造と歴史実践
――津波被災地における復興キュレーション

加藤圭木◉朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働
――「韓国併合」一〇〇年をめぐる日韓の運動から

金子祥之◉〈コラム〉「歴史」を回す――オビシャ行事とオニッキをめぐる歴史実践

《オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー
***Oral History and Writing History*》**

石井　弓◉戦争記憶をめぐる再帰的な歴史実践
――オーラル・ヒストリーによる他者理解と自己理解

金菱　清◉オーラル・ヒストリーの敗北宣言――想像の死者へ向けた手紙

川田牧人◉〈コラム〉「歴史」する聖地創出

《ミュージアムとアーカイブズ *Museums and Archives*》

西村慎太郎◉歴史資料の保全と地域貢献

小山　亮◉東京大空襲・戦災資料センターを拠点とした
「東方社コレクション」をめぐる活動――共同研究の進展と成果の公開

村上忠喜◉〈コラム〉民俗文化財に対する内部者の目線と外部者の目線

《デジタル・パブリック・ヒストリー *Digital Public History*》

後藤　真◉歴史のデータは誰のものか――Digital Historyがもたらす未来とは

渡邉英徳◉「記憶の解凍」
――資料の〝フロー〟化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

塚原伸治◉〈コラム〉歴史を刻む音楽――ある祭り囃子の「成長」

《アートと歴史映写　*Art and Historiophoty*》

飯田高誉◉歴史・アーカイヴズ・アートの連環
――青森EARTH〈2012 超群島〉／〈2013 すばらしい新世界〉――再魔術化するユートピア〉

青原さとし◉映像という歴史叙述

今井友樹◉〈コラム〉映像で文化を切り取る歴史実践の可能性と課題
――姫田忠義の映像製作

北條勝貴◉パブリック・ヒストリアンへの道程――あとがきにかえて

中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明［著］

人々を魅了した新たなメディア

十六世紀末、従来出版活動を行っていた寺院はもとより、天皇や将軍そして新興の豪商などをも魅了した、日本書物史における新たなメディアが誕生した。

――古活字版である。

これらは、どのような環境において、いかなる人的ネットワークのもとで刊行され、どのように享受されたのか。古典の代表作として広く享受され、多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、そして、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

嵯峨本諸本、『平家物語』下村本諸本の現存伝本目録を収載。

図版点数 約200点!

［著者プロフィール］

高木浩明（たかぎ・ひろあき）

清風高等学校・近畿大学文芸学部非常勤講師。専門は日本中世文学、書誌学。古活字版の悉皆調査により、第3回「岩瀬弥助記念書物文化賞」を受賞。著書、論文に「古活字版悉皆調査目録稿」（一）～（九）（鈴木俊幸編『書籍文化史』第十一～十九集、二〇一〇～一八年）、「大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿」（『調査研究報告』第四十号、国文学研究資料館、二〇二〇年）などがある。

［目次］

はじめに
第一部　下村本『平家物語』とその周辺
第一章　下村本『平家物語』と製作環境をめぐって
第二章　下村本『平家物語』書誌解題稿
第三章　『平家物語』十行平仮名古活字本は下村本の底本たり得るか
第四章　下村本『平家物語』とその周辺
――國學院大學図書館蔵本から考えられること
第五章　『平家物語』古活字覚一本についての覚書
第六章　古活字版『源平盛衰記』の諸版について
第二部「嵯峨本」の世界
第一章　「嵯峨本」再見――現存伝本調査報告
第二章　嵯峨本『伊勢物語』書誌考証
第二章付録　嵯峨本『伊勢物語』（慶長十三年初刊本）部分異植字一覧
第三章　古活字版『伊勢物語』書誌解題稿
第四章　嵯峨本『方丈記』書誌考証
第五章　嵯峨本『撰集抄』書誌考証
第三部　古活字版をめぐる場と人々
第一章　『百人一首抄』（幽斎抄）成立前夜
――中院通勝の果たした役割
第二章　『徒然草寿命院抄』成立前夜
――中院通勝真筆本『つれ〴〵私抄』の紹介を兼ねて
第三章　古活字版『徒然草寿命院抄』書誌解題稿
第四章　角倉素庵と学問的環境
第五章　古活字版を必要とした人々
第六章　古活字版『大和物語』の刊行年時を考える
第七章　古活字版『後漢書』の刊行年時を考える
第八章　本文は刊行者によって作られる
――要法寺版『沙石集』を糸口にして
第九章　要法寺という場について考える
第十章　二兵衛とその出版活動をめぐる覚書
おわりに／初出一覧／図版一覧／索引

本体15,000円（+税）
A5判上製カバー装・880頁
ISBN 978-4-585-20077-2・C3000
2020年11月刊行

書　名	部　数
中近世移行期の文化と古活字版 高木浩明［著］ 本体15,000円（+税） A5判上製カバー装・880頁 ISBN 978-4-585-20077-2・C3000 2020年11月刊行	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

アーネスト・サトウと蔵書の行方

『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって

プロヴィナンス

小山騰［著］

その「本」はどこから来て、どこへ行ったのか――

幕末・明治期、英国の外交官・日本研究者として活躍し、日本の古書収集家として傑出した人物であったアーネスト・サトウ。
そのサトウのコレクションの中に浮世絵の研究、特に謎の浮世絵師「写楽」の考証にとっての重要な資料である『増補浮世絵類考』が含まれていた。
作者の斎藤月岑の死後、サトウの所蔵をへて、ケンブリッジ大学図書館にたどり着くまでの期間、この本はどのような変遷をたどったのか。
写本として受け継がれた『浮世絵類考』の全般にかかわる問題にも言及しつつ、その謎を追う。

［目次］

はしがき――本題の〝まくら〟として、まず剣客と写本の話
序　章　『浮世絵類考』
第一章　『増補浮世絵類考』を入手した事情をさぐる
第二章　アーネスト・サトウの蔵書収集
第三章　サトウの蔵書の行方と蔵書目録
第四章　アンダーソンとサトウ
第五章　終　章
あとがき／参考文献一覧／人名索引



［著者プロフィール］

小山騰（こやま・のぼる）
一九四八年愛知県生まれ。成城大学文芸学部卒業。慶應大学大学院修士課程（日本史）修了。ロンドン大学UCLでPG Dip（図書館・情報学）を取得。国会図書館勤務などを経て、一九八五年から二〇一五年までケンブリッジ大学図書館日本部長。
主な編著書に、『日本の刺青と英国王室――明治期から第一次世界大戦まで』（藤原書店、二〇一〇年）、『ケンブリッジ大学図書館と近代日本研究の歩み』（勉誠出版、二〇一七年、第二十回図書館サポートフォーラム賞受賞）、『戦争と図書館――英国近代日本語コレクションの歴史』（勉誠出版、二〇一八年）などがある。

本体四二〇〇円（＋税）
四六判上製カバー装・四六四頁
二〇二〇年十一月刊行
ISBN978-4-585-20078-9・C1000

書　名	部　数
アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって 小山騰［著］ 本体4,200円（＋税） 四六判上製カバー装・464頁 ISBN 978-4-585-20078-9・C1000 2020年11月刊行	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

芸能・文化史



明治の一発屋芸人たち

珍芸四天王と民衆世界

四天王はなぜ消えた？

「ステテコ」の円遊、「ヘラヘラ」の万橘、「ラッパ」の円太郎、「テケレッ」の談志。

全国的な熱狂を引き起こしたにもかかわらず、歴史の狭間に消えた「珍芸四天王」たちの実像に迫る！

永嶺重敏〈著〉

ながみね・しげとし◎一九五五年生まれ。九州大学文学部卒業。元東京大学図書館職員。出版文化・大衆文化史研究家。日本出版学会、本マス・コミュニケーション学会、メディア史研究会、日本ポピュラー音楽学会会員。著書に『雑誌と読者の近代』（日本エディタースクール出版部、一九九七年、日本出版学会賞）、『オッペケペー節と明治』（文春新書、二〇一八年）、『「リンゴの唄」の真実―戦後初めての流行歌を追う』（青弓社、二〇一八年）、『歌う大衆と関東大震災―「船頭小唄」「籠の鳥」はなぜ流行したのか』（青弓社、二〇一九年）など多数。

序章◉明治前期の落語界と新奇性の追求
◎落語家の人数◎寄席と劇場と観客
◎寄席の取り締まりと新奇性の追求

第一部◉珍芸の誕生とその民衆的起源

第一章◉ステテコ踊りの「新手」の誕生
◎ステテコ踊りとは◎ステテコ踊りの起源に関する定説
◎円遊の真打ち昇進とステテコ踊りの「新手」の誕生
◎ステテコ踊りの歌の変遷

第二章◉ヘラヘラ・ラッパ・テケレッパアの誕生――都市路上の再現
◎ヘラヘラ踊りは大道芸に起源
◎ラッパの円太郎――東京の路上の再現
◎談志は「郭巨」の故事を実演

第二部◉珍芸ブームの全国的拡大と民衆世界

第三章◉珍芸ブームの展開過程
◎ヘラヘラ・ステテコが珍芸ブームを先導
◎七人男ブームの誕生◎四天王ブームへの移行
◎落語界から反発の声上がる

第四章◉珍芸ブームが全国へ拡がる
◎珍芸の市中への拡がり◎珍芸の地方への伝播
◎関西の女芸人によるヘラヘラブーム

第三部◉四天王の凋落と新たな芸人の登場

第五章◉四天王の凋落
◎大一座の解体◎万橘の「田舎稼ぎ」
◎ラッパ芸に生きた円太郎◎円遊は落語界の重鎮へ
◎落語研究会と円遊の凋落

第六章◉明治二十年代の新たな芸人と歌の流行
◎川上音二郎と「オッペケペー節」
◎春風亭双枝と「ヤッツケロ節」◎徳永里朝と「縁かいな」

おわりに・参考文献・挿図一覧
資料1　「万橘坊主ノ伝」　槎盆子（関謙之）
資料2　四天王の口演速記演目リスト（明治期刊行分）
資料3　円遊口演の録音資料

本体3,500円（+税）
四六判上製カバー装・280頁（附・カラー口絵）
2020年11月刊行
ISBN978-4-585-27058-4 C0076

書　名	部数
明治の一発屋芸人たち 珍芸四天王と民衆世界 永嶺重敏〈著〉 本体3,500円（+税） 四六判上製カバー装・280頁（附・カラー口絵） 2020年11月刊行 ISBN978-4-585-27058-4 C0076	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版　※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

土地の記憶から読み解く 早稲田

江戸・東京のなかの小宇宙

ミクロコスモ

ローザ・カーロリ〈著〉……一九六〇年生まれ。ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学教授。専門は、日本近現代史、沖縄史、江戸・東京の都市史。
大内紀彦／フィリッポ・ドルネッティ〈訳〉

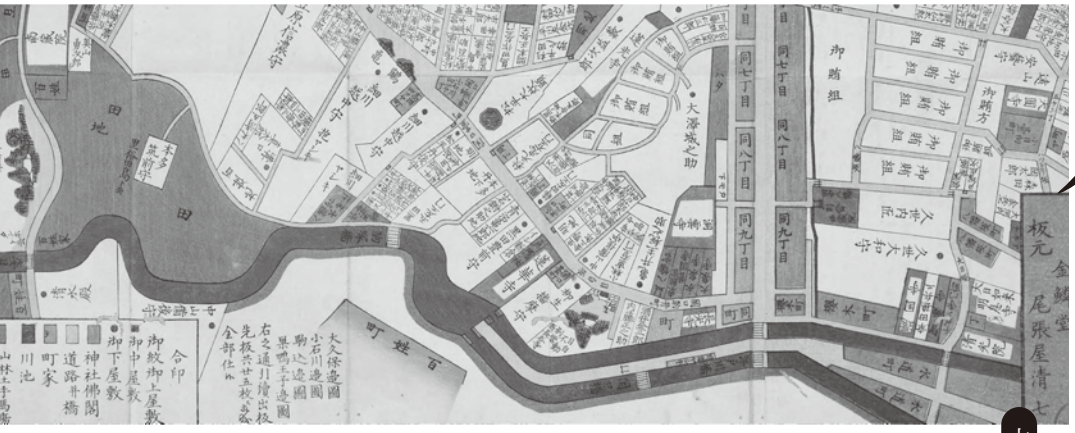
早稲田を歩き、江戸・東京を知る！

古写真・古地図
浮世絵・古文書
など、
図版点数100点超！

大都市東京の周縁、早稲田界隈。

低地と台地と、多くの坂に形どられたこの地を
歩き続けた一人のイタリア人研究者がいた。
神田川・東京専門学校・尾張藩下屋敷・穴八幡宮・
胸突坂・夏目漱石・椿山荘——
過去と現在、様々な学問領域を横断する自在な構想力で、
古代・中世・近世に遡る土地の基層を掘り起こし、
早稲田という「小宇宙（ミクロコスモ）」から、
江戸・東京という「大宇宙（マクロコスモ）」を描く。
膨大な文献・史料・地図の博捜と現地踏査から
土地の文化的・歴史的価値を発見する、

もうひとつの江戸・東京学。



本書の構成

読書案内……陣内秀信
カラー口絵
［第1章］井の頭から江戸の井戸まで
——神田川と水都としての江戸の発展
［第2章］江戸から大江戸へ
——振袖火事と早稲田界隈の下屋敷の誕生
［第3章］椿の山——神田川の北側
［第4章］早稲田

『東京の空間人類学』著者、
ブラタモリでもおなじみ、

陣内秀信先生推薦！

本体二七〇〇円（＋税）
四六判並製カバー装・二七二頁（＋カラー12頁）
二〇二一年三月中旬刊行
ISBN978-4-585-22299-6 C0021

書名		部数
土地の記憶から読み解く 早稲田 江戸・東京のなかの小宇宙 ローザ・カーロリ〈著〉大内紀彦／フィリッポ・ドルネッティ〈訳〉	本体2,700円（＋税） 四六判並製カバー装・272頁（＋カラー口絵12頁） 2021年3月刊行 ISBN978-4-585-22299-6 C0021	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

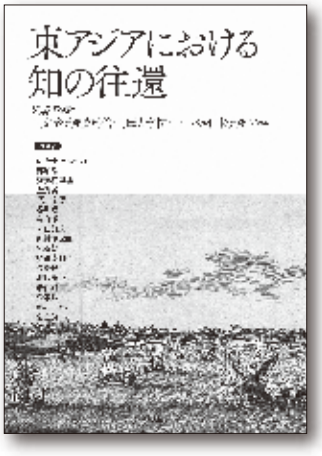
国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 ……［共編］

東アジアにおける知の往還

【アジア遊学255】

東アジアにおける知の動態を明視する

気候危機にパンデミック、市民間の分断…。生命をも脅かす大きな困難が次々に起こる現代、我々はいかにして大量の情報を「個」として的確に受け止め、判断の材料に変換できるのか。そのための「知」を下支えするものの根拠を豊富な文献に求め、歴史的経験を留めた表現の集合体から照射することで新規の問いかけに繋げる。文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。



定価 3,080 円（税込）本体 2,800 円
A5 判並製カバー装・200 頁
ISBN978-4-585-32501-7　C1395
2021年4月刊行

【目次】

序
刊行によせて◉ロバート キャンベル
刊行によせて◉鄭炳浩
本書の企画と構成◉齋藤真麻理・金秀美

Ⅰ 書物と文化
『栄花物語』と朝鮮王朝の宮廷文学
――『閑中録』との比較を中心として◉桜井宏徳
遺稿集の季節――二十世紀前半の日本の言説編制◉谷川惠一
近代日本の元寇図と『蒙古襲来絵詞』◉金容澈
〈コラム〉絵画と文字の表現コード
――『源氏物語絵巻』を読み解く◉金秀美
〈コラム〉奈良絵本と『徒然草』
――ジャンルを往還するメディア◉齋藤真麻理
〈コラム〉正方形の本をめぐって◉入口敦志

Ⅱ 記録と記憶
日本と韓国の災難文学と記憶
――セウォル号沈没事件と東日本大震災の災難詩を中心として◉鄭炳浩
近代福島県富岡町小良ヶ浜の文書管理――複合災害・縁故地・区有文書◉西村慎太郎
〈コラム〉『三国遺事』を巡るいくつかの知見について◉宋浣範
言語と滅刑――森鷗外『高瀬舟』において◉野網摩利子
〈コラム〉在日朝鮮人「帰国事業」の記録と記憶の文学◉金季杼

Ⅲ 都市という舞台
江戸における巨大寺院の復興と講中――築地本願寺の場合◉渡辺浩一
日本の伝統詩歌に描かれた大都京城の風土◉嚴仁卿
〈コラム〉『京城日報』と近代都市京城の表象
――横光利一の満鉄招請文学講演旅行と「天使」を中心に◉金孝順
パリが主人公
――レティフとメルシエの作品とパリの文学的神話の誕生◉ギョーム・カレ
〈コラム〉日韓の西洋探偵小説における都市表象
――エミール・ガボリオの『ルルージュ事件』を中心に◉兪在真

書　名	部　数
東アジアにおける知の往還 【アジア遊学No.243】 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院［共編］ 定価3,080円（税込）/本体2,800円 A5判並製カバー装・200頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-32501-7 C1395	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

日本語文字論の挑戦

表記・文字・文献を考えるための17章



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、
世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。
古来、日本人にとって「文字」は、
意思疎通のための情報ツールであると同時に、
彼我の文化に架橋するための媒体であった。
古代から現代までを視野に
「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、
日本語における「文字論」の豊穣な世界を示す初めての一冊。

加藤重広・岡墻裕剛〈編〉

かとう・しげひろ◉一九六四年生まれ。北海道大学文学研究院教授(言語科学研究室)。専門は日本語学・言語学。著書に『日本語統語特性論』(北海道大学出版会、二〇一三年)、『言語学講義』(筑摩書房、二〇一九年)などがある。

おかがき・ひろたか◉一九八〇年生まれ。神戸女子大学文学部日本語日本文学科准教授。専門は日本語学(表記・漢字)。著書に『B・H・チェンバレン『文字のしるべ』影印・研究』(編著、勉誠出版、二〇〇八年)などがある。

定価七、七〇〇円(税込)
[本体七〇〇〇円]

A5判並製カバー装・四三二頁
二〇二一年三月刊行
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

もくじ

まえがき[岡墻裕剛]

第1部…言葉をどう書くか
日本語の表記システムとその特徴
——日本語の言語学的文字論として[加藤重広]
近・現代小説の片仮名の用法一斑
——村上春樹『海辺のカフカ』を中心に[金水敏]
古代中国語における漢字の表語現象の諸相[松江崇]
平安時代の真仮名[乾善彦]

第2部…文献をどう読むか
訓点研究「超」入門[小助川貞次]
篆隷万象名義における漢文節の意味注記について[李媛]
図書寮本『類聚名義抄』における掲出語と注文の対応について[申雄哲]
辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討
——キリシタン版『落葉集』と『ぎやどぺかどる』を中心として[白井純]
明治期における基本漢字文献の諸相[岡墻裕剛]

第3部…文字をどう学ぶか
『文選』の学習——訓点資料を通して見えてきたこと[渡辺さゆり]
学びの系譜とその豊饒——江戸寺子屋教科書往来物資料を中心に[萩原義雄]
変体仮名を学ぶ小学生[岡田一祐]
米国陸海軍日本語学校の漢字教材"kanji book"[高田智和]

第4部…文化をどう残すか
京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景
——[王+龍]「[雨+龍]」を中心に[笹原宏之]
「蝦夷記」のアイヌ語申渡文における仮名の用法[佐藤知己]
JIS仮名とUnicode仮名をめぐるいくつかの問題[當山日出夫]
漢字字体研究と日本古辞書データベースの構築[池田証壽]

あとがき[加藤重広]・執筆者一覧

書名	部数
日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章 **加藤重広・岡墻裕剛**〈編〉 定価**7,700**円(税込)・本体7,000円 A5判並製カバー装・432頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-38000-9 C3081	部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

おおやそういち

大宅壮一文庫解体新書

雑誌図書館の全貌とその研究活用

阪本博志［編］

大宅壮一文庫、開設50周年！
文庫の全てに迫る！

大宅壮一が収集した膨大な雑誌のコレクションを基礎として設立された大宅壮一文庫。二〇二一年、開設から五〇年を迎える大宅壮一文庫について、概要から、その誕生の歴史、そして文庫を活用した研究の実践例まで、すべてを網羅した解説書。

＊大宅壮一（一九〇〇-一九七〇）とは…

日本のジャーナリスト、ノンフィクション作家、評論家。時代の風潮を見事に裁断する独特な社会評論や人物評論で、長くマスコミ界で活躍。明快な是々非々論で広く一般大衆の支持を得た。また、「一億総白痴化」、「恐妻」、「口コミ」など、多数の造語を生んだ。

本書の特色

①「雑誌の図書館」大宅壮一文庫の概要、歴史、利用方法などを、詳細に解説。

②実際に大宅壮一文庫を利活用している執筆者陣が、文庫を利用することでどういったことが見えてくるかをまとめた論考を収録。

編者プロフィール

阪本博志（さかもと・ひろし）

帝京大学文学部社会学科教授。専門は社会学・メディア史・出版文化論。主な著書に『『平凡』の時代―一九五〇年代の大衆娯楽雑誌と若者たち』（昭和堂、二〇〇八年、第30回日本出版学会賞奨励賞・第18回橋本峰雄賞）、『江戸川乱歩大事典』（落合教幸・藤井淑禎・渡辺憲司との共編、勉誠出版、二〇二一年）などがある。

定価三、八五〇円（税込）・本体三、五〇〇円
A5並製カバー装・三〇〇頁
二〇二一年五月刊行
ISBN978-4-585-30001-4 C1000

目次

カラー口絵／はじめに◎大宅映子／本書の構成◎阪本博志

第Ⅰ章　索引的思考
――〈無思想人〉大宅壮一における知の技法◎有馬学
コラム①　ノーパン喫茶と大宅文庫
――週刊誌がおしえてくれること、くれないこと◎井上章一

第Ⅱ章　大宅壮一と大宅壮一文庫◎阪本博志
①大宅壮一文庫の誕生②大宅壮一文庫の発展③大宅壮一文庫のこれから
コラム②　大宅文庫について思うこと◎三鬼浩子

第Ⅲ章　雑誌の図書館　大宅壮一文庫
――その所蔵資料と利用方法◎鴨志田浩
①大宅壮一文庫の概要②大宅壮一文庫の迷宮書庫
③大宅壮一文庫の出版物④大宅壮一文庫の索引・検索システム
⑤大宅壮一文庫の資料閲覧と各種サービス
コラム③　長持としての大宅文庫◎永井良和

第Ⅳ章　大宅壮一文庫の活用(1)　横断的研究
雑誌アーカイブ・大宅壮一文庫――その現在と未来◎前島志保
二一世紀における大宅文庫の可能性◎鳥羽耕史
受験・教育雑誌と文学――大宅壮一文庫所蔵誌をきっかけとして◎大原祐治
出版社系週刊誌の誕生――『週刊新潮』と文学との関わりを中心に◎加藤邦彦
コラム④　「心の時代」をどうやって可視化するか◎牧野智和

第Ⅴ章　大宅壮一文庫の活用(2)　テーマ研究
「大宅壮一文庫雑誌記事索引」にみる性風俗の歴史
――「トルコ風呂」の元祖、「東京温泉」を例に◎光石亜由美
寄せ場の表象――大衆雑誌にみる高度経済成長期の「山谷」◎石川巧
話芸を書き残す――漫才作者秋田実と雑誌◎後藤美緒
間テクスト的存在としての「スケバン」◎難波功士
コラム⑤　書物のない場所――戦後文学に描かれた「書物」◎多田蔵人
あとがき◎阪本博志



書　名	部　数
おおやそういち **大宅壮一文庫解体新書** 雑誌図書館の全貌とその研究活用 阪本博志［編］ 定価3,850円（税込）・本体3,500円 A5判並製カバー装・300頁 ISBN 978-4-585-30001-4・C1000 2021年5月刊行	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

口絵図版



大宅壮一の書斎が復元された部屋
手前の机は大宅がじっさいに使用していたもの。



『婦人公論』がならぶ書棚
大宅壮一が古書市で競り落としたもの。競り合った相手は、版元の中央公論社であったという。



2階閲覧室の様子



雑誌記事の索引カードと大宅壮一文庫の刊行物



書棚
週刊誌が並んだ書棚は、週刊誌が収まるサイズのものを大宅壮一が特注してつくらせたものである。



パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生

歴史・信仰・空間から考える

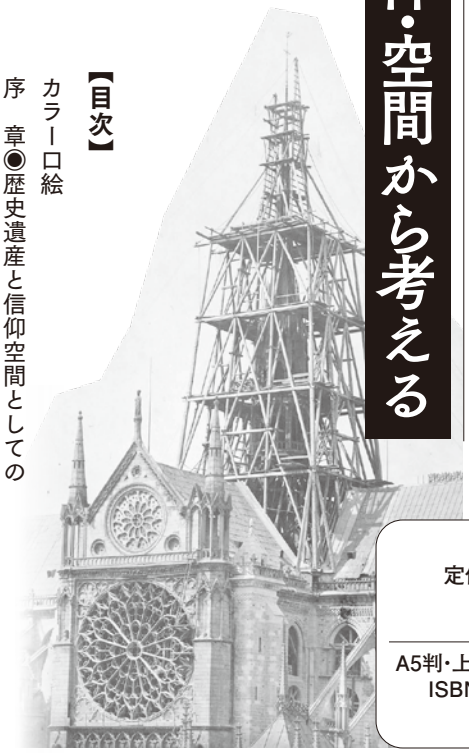
坂野正則［編］

文化財を伝え、守る――

二〇一九年四月十五日に発生した大規模な火災により尖塔や屋根を焼失し、世界中に大きな衝撃をもたらしたパリ・ノートル＝ダム大司教座聖堂。八五〇年の歴史をもつこの大聖堂は初期ゴシック建築の傑作であると同時に、中世以降も、様々な統治権力との結びつきを保ちながらフランスの「国民的記憶」の一翼を担い続けてきた。重要な文化財、そして、宗教施設である大聖堂を空間的・社会的・精神的に「再生」させるためにはどのような方法がふさわしいのか。

絵画作品、図面、大聖堂の写真といった豊富なビジュアル資料とともに、キリスト教神学・建築史学・西洋史学・文化財学による領域横断的なアプローチにより、「ノートル＝ダム大聖堂」の歴史、その復興・再生を考察する。

【編者紹介】
坂野正則（さかの・まさのり）
上智大学文学部史学科教授。専門は西洋史学、フランス近世史。
主な共著に「近世王国の社会と宗教」（平野千果子編著『新しく学ぶフランス史』ミネルヴァ書房、二〇一九年）、「絵画から読み解くフランス宗教戦争」（上智大学文学部史学科編『歴史家の調弦』上智大学出版、二〇一九年）などがある。



【目次】

カラー口絵
序　章◉歴史遺産と信仰空間としてのパリ・ノートル＝ダム大聖堂の再建…**坂野正則**
特別寄稿◉ノートル＝ダムの火災のあとで…**クリスチャンヌ・ウルティック（原敬子訳）**
第1章◉ゴシック時代の教会建築を巡る神学的理解――聖書解釈との関連から…**坂田奈々絵**
［COLUMN］神に会いに行く、みんなの家…**原敬子**
第2章◉中世における都市パリと大聖堂――シテ島東側の空間形成を中心に…**嵩井里恵子**
第3章◉大司教座聖堂としてのパリ・ノートル＝ダム大聖堂の成立――近世空間における権力と聖性…**坂野正則**
第4章◉パリ・ノートル＝ダム大聖堂の近世におけるリノベーション…**中島智章**
［COLUMN］パリのノートル＝ダム大聖堂火災と再建案をめぐって…**中島智章**
第5章◉ノートル＝ダム大聖堂とヴィオレ＝ル＝デュクの木造尖塔…**加藤耕一**
第6章◉近現代ヨーロッパにおけるゴシック様式大聖堂の社会史…**松嶌明男**
編集を終えて…**坂野正則**

定価**8,800**円（税込）
［本体**8,000**円］
A5判・上製カバー装・口絵8頁+本文280頁
ISBN978-4-585-31000-6　C3014
2021年3月刊行

書　名	部　数
パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生 **歴史・信仰・空間から考える** 坂野正則［編］ 定価8,800円（税込）［本体8,000円］ A5判・上製カバー装・口絵8頁+本文280頁 ISBN978-4-585-31000-6 C3014　2021年3月刊行	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

デジタルアーカイブ・ベーシックス 5

新しい産業創造へ

時実象一［監修］
久永一郎［責任編集］

デジタルアーカイブを活用・運用していくための基礎を学ぶことのできる必読のシリーズ

デジタルアーカイブが産業の未来を切り拓く

日本の企業はデジタルアーカイブをどのように利活用し、
それをビジネスに昇華しているのか？
先進的な企業の取組みを紹介することで、
産業におけるデジタルアーカイブの可能性を探る。

「デジタルアーカイブ・ベーシックス」全5巻、ここに完結！

定価 2,750円（税込）・本体2,500円
A5判並製カバー装・288頁
ISBN 978-4-585-20285-1・C1000
2021年5月刊行



目次

はしがき◉時実象一
序論　デジタル技術ととデジタルアーカイブ産業の可能性◉島裕

第1部　デジタルアーカイブの活用

第1章　世界のビジネス・アーカイブズ概観◉松崎裕子
第2章　ポーラ文化研究所における文化資産の展開
　　――「化粧文化データベース」を中心に◉川上博子
第3章　美術と歴史の分野における画像ライセンスビジネス◉國谷泰道
第4章　フィジカルからデータにいたるコンテンツアーカイブの課題とビジネス展開◉緒方靖弘

第2部　デジタルアーカイブ産業を支える技術革新

第5章　情報システム開発の視点から見る日本のデジタルアーカイブ技術の水準◉川嶌健一
第6章　座談会　デジタルアーカイブ技術開発の動向◉大向一輝・肥田康・手嶋毅　（司会）岡本真
第7章　アートの世界を変えるブロックチェーン◉太田圭亮

第3部　デジタルアーカイブ産業の兆し

第8章　「デジタルアーカイブ産業」の萌芽と期待◉彡屋早百合・小林慎太郎
第9章　デジタルアーカイブを活用した自治体史編さん事業の提案◉太田亮子
第10章　映像保存の現在地とこれから
　　――変わりゆくデジタル技術・長期保存メディア・制度を見つめて◉藤原理子
第11章　気象ソリューションで世界企業に◉安部大介
あとがき◉久永一郎

監修 **時実象一**（ときざね・そういち）
1944年生まれ。東京大学大学院情報学環高等客員研究員。専門はデジタルアーカイブ、学術情報、ウェブ検索、ウィキペディア。主な著書に『研究者のコピペと捏造』（樹村房、2018年）、『コピペと捏造』（樹村房、2016年）、『デジタル・アーカイブの最前線』（講談社、2015年）などがある。

責任編集 **久永一郎**（ひさなが・いちろう）
1967年生まれ。大日本印刷株式会社マーケティング本部事業戦略ユニットヒューマン・エンジニアリング・ラボ室長。専門はエクスペリエンスデザイン・インタラクションデザイン。

書　名	部数
第5巻…**新しい産業創造へ** 時実象一［監修］／久永一郎［責任編集］ 定価 2,750円（税込）・本体2,500円 A5判並製カバー装・288頁 ISBN 978-4-585-20285-1・C1000・2021年5月刊行	部
第1巻…**権利処理と法の実務** 福井健策［監修］／数藤雅彦［責任編集］｜978-4-585-20281-3｜C1000｜**2019年3月**｜定価2,750円（税込）・本体2,500円	部
第2巻…**災害記録を未来に活かす** 今村文彦［監修］／鈴木親彦［責任編集］｜978-4-585-20282-0｜C1000｜**2019年8月**｜定価2,750円（税込）・本体2,500円	部
第3巻…**自然史・理工系研究データの活用** 井上透［監修］／中村覚［責任編集］｜978-4-585-20283-7｜C1000｜**2020年4月**｜定価2,750円（税込）・本体2,500円	部
第4巻…**アートシーンを支える** 高野明彦［監修］／嘉村哲郎［責任編集］｜978-4-585-20284-4｜C1000｜**2020年12月**｜定価2,750円（税込）・本体2,500円	部
デジタルアーカイブ・ベーシックス 全5巻 定価 各2,750円（税込）・本体2,500円 A5判並製カバー装・各巻208頁～312頁	セット

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※万一のご返本の際は、青木了解で受付いたします。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

「デジタルアーカイブ・ベーシックス」シリーズ　全5巻完結!

Digital Archive Basics

権利処理と法の実務　第1巻

978-4-585-20281-3｜C1000｜**2019年3月**
定価 2,750 円(税込)・本体 2,500 円

福井健策[監修]／数藤雅彦[責任編集]

シリーズ発刊にあたって デジタルアーカイブ学会会長◎長尾真／まえがき◎福井健策／デジタルアーカイブの構築に関わる法制度の概観——最近の法改正等を中心に◎生貝直人

第1部 **理論編**

著作権の諸問題(1) 保護期間満了(パブリックドメイン)の判断基準◎数藤雅彦・橋本阿友子／著作権の諸問題(2) オーファンワークスへの対応◎瀬尾太一／自治体が運営する災害デジタルアーカイブ——肖像・プライバシー等を巡る現状と課題◎長坂俊成／所有権の諸問題——オーファンフィルムの寄贈に関する問題を例に◎山元裕子・【特別寄稿】とちぎあきら

第2部 **実践編**

公共機関デジタルアーカイブ構築の実務と問題点——国立国会図書館を例に◎井上奈智／アニメーション・アーカイブから見る資料を取り巻く権利とその問題点——I.Gアーカイブの事例より◎山川道子・金木利憲／美術全集のデジタルアーカイブ構築の実務と問題点◎清水芳郎／コラム:映像コンテンツのデジタルアーカイブのための権利処理実務◎宮本聖二／デジタルアーカイブのライセンス表示についての動向◎時実象一／デジタルアーカイブ活用促進のための新しい法的環境の在り方◎福井健策・藤森純

あとがき◎数藤雅彦／執筆者一覧

災害記録を未来に活かす　第2巻

978-4-585-20282-0｜C1000｜**2019年8月**
定価 2,750 円(税込)・本体 2,500 円

今村文彦[監修]／鈴木親彦[責任編集]

震災・災害デジタルアーカイブの今日的意義——新しい防災文化の創生を目指して◎今村文彦

第1部 **震災・災害の記録を残すことの意義と目的**

震災・災害アーカイブの役割と歴史的変遷と現状◎柴山明寛／放送局による東日本大震災アーカイブの意義——NHK東日本大震災アーカイブスを事例に◎宮本聖二／震災の記録を横断する——国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)の意義と課題◎伊東敦子／前田紘志

第2部 **復興に向けて人々の声、地域の歴史を残す**

東北からの声——口承記録デジタルアーカイブから防災・減災のためのアプリケーションへ◎フラヴィア・フルコ、ロビン・オディ、デビッド・スレイター／「命の軌跡」は訴える——東日本大震災、地方紙とデジタルアーカイブ◎鹿糠敏和／市民の力で地震史料をテキスト化「みんなで翻刻」◎橋本雄太

第3部 **未来のためのデジタルアーカイブ——震災・災害情報の利活用**

災害の非可逆性とアーカイブの精神——デジタル台風・東日本大震災デジタルアーカイブ・メモリーグラフの教訓◎北本朝展／歴史地震研究と日記史料有感地震データベース◎西山昭仁／防災科学技術研究所の災害資料とデジタルアーカイブ—自然災害資料の収集・整備・発信◎三浦伸也、鈴木比奈子／記憶の解凍——資料の"フロー"化とコミュニケーションの創発による記憶の継承◎渡邉英徳／あとがき◎鈴木親彦／執筆者一覧

自然史・理工系研究データの活用　第3巻

978-4-585-20283-7｜C1000｜**2020年4月**
定価 2,750 円(税込)・本体 2,500 円

井上透[監修]／中村覚[責任編集]

自然史・理工学デジタルアーカイブの今日的意義◎井上透

第1部 **研究データの活用にむけて**

科学データのデジタルアーカイブにおける必須条件「オープンデータ」◎大澤剛士／研究データ利活用の国際的動向——世界の自然史・理工学DA活用◎南山泰之

第2部 **自然史・理工学DAの社会的活用**

オープンサイエンスと天文学——現状と課題◎玉澤春史／自然史博物館×デジタルアーカイブ——オープンサイエンスを拓く一例としての魚類写真資料データベース◎大西亘

自然史情報のデジタルアーカイブと社会的問題への利用——地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の機能とそのデータの活用◎細矢剛／環境学×教育——森の感性情報アーカイブ・サイバーフォレストを用いた環境教育◎中村和彦

第3部 **自然史・理工系研究データの学際的利用**

南方熊楠データベース—文理統合・双方向型デジタルアーカイブ◎岩崎仁／異分野融合で切り拓く歴史的オーロラ研究——オーロラ4Dプロジェクトの経験から◎岩橋清美／東京大学工学史料キュレーション事業の展開—工学・情報理工学図書館を実例に◎市村櫻子／あとがき◎中村覚

アートシーンを支える　第4巻

978-4-585-20284-4｜C1000｜**2020年12月**
定価 2,750 円(税込)・本体 2,500 円

高野明彦[監修]／嘉村哲郎[責任編集]

まえがき　高野明彦(国立情報学研究所)

Scene 0 **ゼロ地点のDA**

アート×デジタルアーカイブのこれまでとこれから 青柳正規

Scene 1 **アートシーンにおけるデジタル対応の現況**

デジタルアーカイブはどのようにしてアートの振興に貢献するか?◎太下義之／デジタルアーカイブ・ビオトープ——相互関与し複層化する、作品環世界◎田尾圭一郎／アートのデジタルコンテンツの権利処理に関わる法的問題について◎酒井麻千子

Scene 2 **デジタル技術とアート現場のDA**

メディアアート領域にとってのデジタルアーカイブ——国内外の動向◎森山朋絵／デジタル技術と現代のアートの保存◎平諭一郎

Scene 3 **パフォーマンスとアートのDA**

早稲田大学演劇博物館のデジタルアーカイブの現状と課題◎中西智範／土方巽アーカイヴ—実験的アーカイブの理念と活動◎森下隆／日本のオペラアーカイブの現状と課題◎石田麻子・吉原潤／〈服装・身装文科デジタルアーカイブ〉の現在と今後の課題◎高橋晴子

Scene 4 **ミュージアムとアートのDA**

オープンなデジタルミュージアム——多様な価値の共存と高い規模拡張性◎金子晋丈／国立博物館所蔵品統合検索システム「ColBase」——過去・現在・未来◎村田良二／文化遺産オンライン試験公開版の構築◎丸川雄三／ヨコハマ・アート・LOD　その成り立ちと構成◎相澤勝・小林巌生／アート・プロジェクトの現場で取り組むアーカイブの試み◎井出竜郎 ／あとがき◎嘉村哲郎

新しい産業創造へ　第5巻

978-4-585-20285-1｜C1000｜**2021年5月**
定価 2,750 円(税込)・本体 2,500 円

時実象一[監修]／久永一郎[責任編集]

はしがき　時実象一

序論　デジタル技術ととデジタルアーカイブ産業の可能性◎島裕

第1部 **デジタルアーカイブの活用**

世界のビジネス・アーカイブズ概観◎松崎裕子／ポーラ文化研究所における文化資産の展開—「化粧文化データベース」を中心に◎川上博子／美術と歴史の分野における画像ライセンスビジネス　國谷泰道／フィジカルからデータにいたるコンテンツアーカイブの課題とビジネス展開◎緒方靖弘

第2部 **デジタルアーカイブ産業を支える技術革新**

情報システム開発の視点から見る日本のデジタルアーカイブ技術の水準◎川嶌健一

座談会　デジタルアーカイブ技術開発の動向◎大向一輝・肥田康・手嶋毅　(司会)岡本真／アートの世界を変えるブロックチェーン◎太田圭亮

第3部 **デジタルアーカイブ産業の兆し**

「デジタルアーカイブ産業」の萌芽と期待◎夛屋早百合・小林慎太郎／デジタルアーカイブを活用した自治体史編さん事業の提案◎太田亮子／映像保存の現在地とこれから—変わりゆくデジタル技術・長期保存メディア・制度を見つめて◎藤原理子／気象ソリューションで世界企業に◎安部大介／あとがき◎久永一郎

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◉03-5215-9025

日本古文書学会編集

古文書研究

第91号

2021年6月

定価4,180円（税込）・本体3,800円
B5判並製・カラー口絵2頁＋本文160頁
ISBN978-4-585-32401-0　C3321
2021年6月刊行

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵
論文
醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成――報恩院隆源を通して―― …… 佐藤亜莉華
室町幕府における侍所・山城守護の管轄領域区分 …… 松井直人
任官料足請取状（「饗料腰差酒肴」請取状）の検討 …… 村上絢一
特別寄稿 日唐の改元と大赦――水上雅晴編・高田宗平編集協力
『年号と東アジア――改元の思想と文化――』（八木書店、二〇一九年）に寄せて …… 金子修一
研究ノート 「忽那一族軍忠次第」の成立 …… 山内　譲
史料紹介 伝『大外記中原師生母記（播磨局記）』文禄四年別記 …… 遠藤珠紀
追悼文 鈴江英一先生の想い出 …… 丸島和洋
古文書めぐり 石水博物館の歴史資料 …… 桐田貴史
随筆 古典と公家文化――戦国期の公家日記に見る―― …… 湯川敏治
研究余滴 将軍足利義晴上臈一対局と京都 …… 木下昌規
書評と紹介
明治大学広開土王碑拓本刊行委員会編／吉村武彦・加藤友康・徐建新・吉田悦志
『明治大学図書館所蔵　高句麗広開土王碑拓本』 …… 荊木美行
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所編
『藤原宮木簡四』（奈良文化財研究所史料第九十一冊） …… 武井紀子
佐々木恵介著『日本古代の官司と政務』 …… 徳竹亜紀子
倉本一宏著『『御堂関白記』の研究』 …… 近藤好和
工藤浩編『先代旧事本紀論――史書・神道書の成立と受容』 …… 松本郁代
近藤剛著『日本高麗関係史』 …… 高　銀美
矢田俊文編『戦国期文書論』 …… 黒嶋　敏
一柳廣孝著『怪異の表象空間　メディア・オカルト・サブカルチャー』 …… 田部井隼人
中元崇智著『明治期の立憲政治と政党――自由党系の国家構想と党史編纂――』 …… 福井　淳
稲岡勝著『明治出版史上の金港堂――社史のない出版社「史」の試み』 …… 佐々木千恵
日本古文書学会二〇二〇年度総会要旨
彙報
口絵解説 仙台藩士青田家文書　二十一通 …… 荒木和憲
英文レジュメ

書　名	部数
古文書研究 第91号 日本古文書学会［編］ 定価4,180円（税込）・本体3,800円 B5判並製・カラー口絵2頁＋本文160頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32401-0 C3321	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

交錯する宗教と民族

交流と衝突の比較史

鹿毛敏夫［編］

アジア遊学257



定価二、〇八〇円（税込）
本体一、八〇〇円
A5判並製カバー装・二二四頁
二〇二一年七月刊行
ISBN978-4-585-32503-1 C1320

混沌の歴史を紐解く

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される「国家」意識の具体的深層に迫る。歴史学・文学・社会学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の分野から多角的に比較検証し、宗教・民族・国家間の共存のあり方を問い直す。

［目次］

はしがき　異宗教・多民族世界の混沌
——その歴史と現在…**鹿毛敏夫**

第1部◉流動する民族社会

鎌倉北条氏と南宋禅林——渡海僧無象静照をめぐる人びと…**村井章介**
ドイツ語圏越境作家における言語、民族、文化をめぐって…**土屋勝彦**
近代名古屋にとっての中東——実業界との関係を中心に…**吉田達矢**
民族をめぐる対立と交流の位相
——滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から…**人見泰弘**

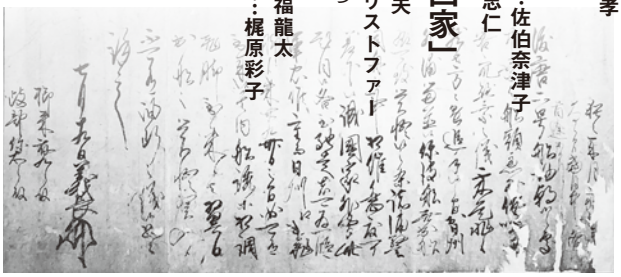
第2部◉宗教の断絶と叡智

ボーダレス化する世界と日本の宗教文化…**井上順孝**
ラダックのアイデンティティ運動
——もうひとつの「カシミール問題」…**宮坂清**
インドネシア・アチェ州のイスラーム刑法と人権…**佐伯奈津子**
宗教と平和——宗教多元社会における戦争…**黒柳志仁**

第3部◉個の相克と相対化される「国家」

戦国大名の「国」意識と「地域国家」外交権…**鹿毛敏夫**
日本中世の「暴力」と現代の「教育」…**メイヨー・クリストファー**
一亡命作家の軌跡：西欧キリスト教世界の対岸から
——ファン・ゴイティソーロの
バルセロナ、サラエヴォ、マラケシュ…**今福龍太**
保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生…**梶原彩子**





［編者紹介］

鹿毛敏夫（かげ・としお）
名古屋学院大学教授。専門は日本中世史。主な著書に『戦国大名の海外交易』（勉誠出版、二〇一九年）、編著に『大内と大友——中世西日本の二大大名』（勉誠出版、二〇一三年）、『描かれたザビエルと戦国日本——西欧画家のアジア認識』（勉誠出版、二〇一七年）、『戦国大名大友氏の館と権力』（共編、吉川弘文館、二〇一八年）などがある。

書　名	部　数
交錯する宗教と民族　交流と衝突の比較史　鹿毛敏夫［編］　【アジア遊学257】 定価3,080円（税込）・本体2,800円 A5判並製カバー装・224頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32503-1 C1320	部

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

中国史書入門
現代語訳 北斉書

【監修】
氣賀澤保規…明治大学東アジア石刻文物研究所所長

【訳者】
池田恭哉…京都大学文学研究科准教授
岡部毅史…大阪市立大学学術情報課職員
梶山智史…明治大学・専修大学兼任講師
倉本尚徳…京都大学人文科学研究所准教授
田熊敬之…東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

二十四史と呼ばれる中国歴代王朝史（正史）を、現代語訳で読む「中国史書入門」シリーズ。
異民族が中原に進出し、群雄割拠した魏晋南北朝時代。
有名な**蘭陵王・高長恭**が活躍した北斉の正史『北斉書』を現代語で読む。

本書の特色
- ◆原文と現代語訳が対照できる。
- ◆皇帝の本紀を全篇訳出。各列伝の抄訳。
- ◆『北斉書』や「東魏・北斉」を理解するコラム、地図や事表、系図などの資料を収録。

本体六、〇〇〇円（+税）
A5判並製カバー装・約六五〇頁
二〇二一年夏刊行
ISBN978-4-585-29612-6 C0398

目次

はじめに
第一部 **帝室の軌跡**
第一章 帝紀
神武帝（上・下）、文襄帝、文宣帝、廃帝、孝昭帝、武成帝、後主、幼主
第二章 後宮伝
神武婁后、文襄元后、文宣李后、孝昭元后、武成胡后、後主斛律后・胡后・穆后
第三章 諸王侯伝
高祖十一王、文襄六王
第二部 **人臣の列伝**
第四章 群臣伝――東魏・北斉の勲貴たち
竇泰、尉景、婁昭（兄子・婁叡）、厙狄干（子・厙狄士文）、韓軌、潘樂、段榮（子・段韶、段孝言）、斛律金（子・斛律光、斛律羨）、孫騰、高隆之、司馬子如、賀拔允、蔡儁、韓賢、尉長命、王懐、劉貴、任延敬、莫多婁貸文、高市貴、薛孤延、張瓊（子・張忻、張遵業）、斛律羌擧（子・斛律孝卿、代人・劉世清）、堯雄（弟・堯奮、従父兄・堯傑）、慕容紹宗、慕容儼
第五章 群臣伝――神武帝・文襄帝・文宣帝の謀臣・武将たち
高乾（弟・高慎、高昂、高季式）、封隆之（子・封子繪、従子・封孝琬、封孝琰）、李元忠（子・李掞、族弟・李密、宗人・李愍、族叔・李景遵）、盧文偉（子・盧恭道、孫・盧詢祖、族人・盧勇）、李義深（子・李騊駼、孫・李正藻）、魏蘭根、崔悛（子・崔瞻、族叔・崔景鳳、族子・崔肇師）、孫搴、陳元康（子・陳善藏、弟・陳謨）、杜弼
第六章 群臣伝――東魏・北斉の文武百官たち
敬顯儁、破六韓常、元孝友、李渾（子・李湛、弟・李繪、族子・李公緒）、崔暹、高徳政、崔昂、王昕（弟・王晞）、陸法和、王琳、徐之才（子・徐林、徐同卿、徐之範）、楊愔（燕子獻、宋欽道、鄭頤）、裴讓之（弟・裴諶之、裴讜之）、邢卲、魏收、辛術、元文遙、趙彦深、崔季舒、祖珽、尉瑾、唐邕、白建、暴顯、皮景和、綦連猛、元景安、獨孤永業、陽斐、盧潜、崔劼、盧叔武、陽休之、袁聿修、李稚廉、封述、源彪
第七章 学術伝
儒林伝序、顔之推
第八章 外戚伝・方伎伝・恩倖伝
外戚序、婁叡、胡長仁（従祖兄・胡長粲）、方伎序、由吾道栄、信都芳、宋景業、許遵、呉遵世、趙輔和、皇甫玉、解法選、魏寧、綦毋懐文、張子信、馬嗣明、恩倖序、郭秀、和士開、穆提婆、高阿那肱、韓鳳、韓寶業・盧勒叉・齊紹
コラム
『北斉書』編纂◉「鄴城・晋陽」両都制◉北斉蘭陵王◉文林館『修文殿御覧』
侯景の乱◉北斉仏教◉西域胡人◉北斉・北周の関係
資料編（北斉版図、事表、系図ほか）
おわりに

書名	部数
中国史書入門 現代語訳 北斉書 氣賀澤保規[監修]　池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之[訳]	部

本体6,000円（+税）
A5判並製カバー装・約650頁
2021年夏刊行
ISBN978-4-585-29612-6 C0398

ご送付先ご住所（通信欄）

勉誠出版
※上記注文書にご記入の上、勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2　TEL.03-5215-9021　WEBSITE.http://bensei.jp/
FAX◉03-5215-9025

既刊のご案内

＊表示価格には別途消費税がかかります。
＊ISBN は 978-4-585 を　省略しています。

歴史

古代の日本と東アジア 人とモノの交流史



鈴木靖民［著］

東アジア諸国は如何に形成され、展開したのか。文献資料、最新の考古学的成果を博捜し、地政学、ヒト・モノ・文化の交流の視点より日本および東アジアの歴史的展開を浮き彫りにする、長年にわたり東アジア古代史研究を牽引する碩学による最新論集。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・472頁・ISBN22279-8・2020年7月刊行

新羅中古期の史的研究



武田幸男［著］

とくに飛躍的な発展を見せた新羅中古期（514～654年）を中心に考究。陸続と発見された各種の新羅碑文を諸史料とともに精緻に読み込むことにより、当時の激動する東アジアの国際関係における、新羅の史的実態とその展開過程を明らかにする。

本体12,000円（＋税）・A5判上製・568頁・ISBN22278-1・2020年7月刊行

金沢文庫古文書　喫茶関係編年資料集



永井晋［編］

中世東国の茶の歴史をいまに伝える史料が『金沢文庫古文書』のなかに多数存在する。同史料群より貴重史料三〇八通の翻刻と解説を行い、編年で配列、これまで見落とされてきた中世日本の茶をめぐる文化的広がりを明らかにする。

本体10,000（＋税）・A5判上製・376頁・ISBN22288-0・2020年9月刊行

古文書の様式と国際比較



小島道裕・田中大喜・荒木和憲［編］／国立歴史民俗博物館［監修］

古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を通史的・総合的に論じ、また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。掲載図版120点超！　カラー口絵では、古文書の様式を分かりやすく図解。

本体7,800円（＋税）・A5判上製・432頁・ISBN22272-9・2020年2月刊行

日本の表装と修理



岩﨑奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人［編］

絵画や書、古文書の表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての文化財保護の意義と意味を照射する。

本体7,000円（＋税）・A5判上製・432頁・ISBN20073-4・2020年3月刊行

日本建築の歴史的評価とその保存



山岸常人［著］

歴史的建造物をどのように調査し、その特質を読み取るのか、どのように保存を行ってゆくべきなのか。長年にわたり調査・研究・保存に携わってきた知見より、歴史的建造物を保存し将来に伝えて行くための考え方と具体的な事例を提示する。

本体17,000円（＋税）・B5判上製・672頁・ISBN22268-2・2020年2月刊行

近世大名墓の考古学 東アジア文化圏における思想と祭祀



松原典明［編］

幕藩体制の社会構造、地域の政治・経済・文化・信仰についての歴史的背景を解明するための重要な歴史資料、近世大名墓所を考古学そして文献学の知見より多角的に検討し、近世武家社会における為政者の思想とその実践の諸相を明らかにする。

本体12,000円（＋税）・B5判上製・336頁・ISBN22276-7・2020年6月刊行

生きるための地域史 東海地域の動態から

中村只吾・渡辺尚志［編］

日本列島の中央部に位置し、東日本と西日本をつなぐ東海道という大動脈が走る東海地域にスポットをあて、その地域の社会環境・自然環境と向き合って悩み、選択した人びとの営為を多面的に描き出す。

本体8,000（＋税）・A5判上製・304頁・ISBN22290-3・2020年10月刊行



日本近世社会と町役人

望月良親［著］

甲斐国の甲府町年寄を代々務めたとされる坂田家はどのようにして中世以来続く世襲町役人としての位置を確固たるものとし、近世社会を生きていったのだろうか。伝来の文書等諸史料の博捜により解明し、新たな近世社会の様相を描き出す。

本体6,000円（＋税）・A5判上製・256頁・ISBN22266-8・2020年2月刊行



近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容
北奥地域の事例研究

鈴木淳世［著］

19世紀前半、相次ぐ飢饉や財政窮乏などの社会状況の変化に対し、中間層である豪商・豪農たちはどのように対応していったのか。彼らの思想の形成過程を蔵書体系や書物受容から探り、「知」との関わりを解明する。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・480頁・ISBN22265-1・2020年2月刊行

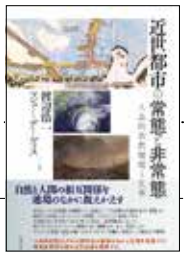


近世都市の常態と非常態 人為的自然環境と災害

渡辺浩一／マシュー・デーヴィス［編］

「水」に着目し、近世都市において、水がどのようなシステム・環境の元に制御され、災害によりどのような変化・対応を強いられたのかを、学融合･比較という観点から解明。人間社会の動態のなかに災害を位置づけ、環境史研究の新たな方法論を模索する。

本体7,000円（＋税）・A5判上製・240頁・ISBN22267-5・2020年2月刊行



江戸庶民のまじない集覧 創意工夫による生き方の智恵

長友千代治［著］

疫病、災害、男女関係、不妊、子育て、疾病、寿命…江戸時代に出版・書写された資料を博捜、効能別に分類し、240点以上の図版とともに紹介する「まじない」百科事典！

本体6,000（＋税）・A5判上製・392頁・ISBN20076-5・2020年10月刊行



江戸日本橋商人の記録 〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書

澤登寛聡・筑後則［編］

享保改革期から田沼時代・寛政改革・文化期まで活躍し、320年の歴史の基礎を築いた高津家三代・四代当主の活動を克明に記した日記･文書、その思想･人生哲学を伝える史料を初めて翻刻、解題･通釈を付して公刊。商人･町人の暮らしを映し出す貴重資料。

本体11,000円（＋税）・四六倍判上製・352頁・ISBN22269-9・2020年3月刊行



儒教儀礼と近世日本社会 闇斎学派の『家礼』実践

松川雅信［著］

近世日本社会において儒者達は、儒教儀礼、殊に『家礼』記載の喪祭礼をどのように捉え、実践しようとしたか。山崎闇斎を学祖とする闇斎学派に着目、思想と社会とが交錯する現場に立ち入り、従来、見落とされてきた近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・440頁・ISBN21056-6・2020年7月刊行



甦る「豊後切支丹史料」 バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より



松井洋子・佐藤孝之・松澤克行［編］

1942･46年に刊行されて以後、キリシタン研究に不可欠の基礎文献として用いられてきた『豊後切支丹史料』･『続豊後切支丹史料』。2011年バチカン図書館発見の両書の原史料に基づき、改めて忠実に校訂・翻刻。さらに関連する史料を併せて提供する。

本体12,000円（＋税）・A5判上製・564頁・ISBN22261-3・2020年2月刊行

琉球船漂着者の「聞書」世界 『大島筆記』翻刻と研究



島村幸一［編］

『大島筆記』諸本のうち最も内容の備わった最善本を初めて全編翻刻、校異を付し、さらに琉球船の土佐への漂着に関する貴重資料『琉球船漂差記』『韓川筆話（抄）』『琉球人話』を収録。研究編として、論考六篇を収載した決定版。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・472頁・ISBN29197-8・2020年3月刊行

歴博甲本洛中洛外図屏風の研究



小谷量子［著］

芸術志向の近現代絵画とは異なる中世絵画の特徴をふまえ、歴博甲本に描かれた主題、注文者、そして作者を明らかにする。絵の中に巧に隠された「歌・物語」の中に、制作を命じた将軍のメッセージが残されている。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・524頁・ISBN22257-6・2020年2月刊行

挑発する軍記



大津雄一［著］

『平家物語』『太平記』などに代表される「いくさ」を描いた物語は、いまなお、なぜ読まれ、語り継がれていくのか。「死」と「生」の物語のもつ魅力と意義、そして可能性をあざやかに解き明かす。

本体3,800（＋税）・四六判上製・384頁・ISBN22292-7・2020年10月刊行

吉田松陰と学人たち



徳田武［著］

幕末の激動する国際状況の中で、学問を追求し、思索し、行動した学人たちとの多彩な交流から、松陰という人物の軌跡と精神の展開とを俯瞰する。日記をはじめとする諸資料を丹念に紐解き、松陰の一生に影響を与えた学人たちとの関係を追尋した快著。

本体10,000（＋税）・A5判上製・560頁・ISBN22291-0・2020年10月刊行

医学・科学・博物　東アジア古典籍の世界



陳捷［編］

医学・本草学・農学・科学に関する書物は、人びとの社会・生活に密着するものとして広く流通・展開している。これまで総合的に論じられることのなかった東アジアにおける情報伝達と文化交流の世界を、地域・文理の枠を越えて考究する画期的論集。

本体12,000円（＋税）・A5判上製・456頁・ISBN20072-7・2020年2月刊行

ロマノフ王朝時代の日露交流



東洋文庫・生田美智子［監修］／牧野元紀［編］

300年にわたるその栄枯盛衰の歩みには日本との重厚な交流の歴史があった。江戸時代以来、日露戦争を経て、ロシア革命前夜まで続いた日露関係の展開を、アジア関連資料の宝庫『東洋文庫』の珠玉の名品とともに探る。図版掲載点数200点以上！

本体3,800円（＋税）・四六判上製・520頁・ISBN22286-6・2020年8月刊行

スイス使節団が見た幕末の日本

ブレンワルド日記 1862-1867

横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会［編］



スイスとの通商条約締結の過程や横浜での西洋人の生活、生麦事件発生当時の居留地の様子、幕末の外国商社の活動などを具体的に知ることができる一級資料であるブレンワルドの日記のうち1867年12月までのものを全編翻訳し初公開。図版点数111点！

本体9,800（＋税）・A5判上製・570頁・ISBN22275-0・ 2020年6月刊行

幕末明治の社会変容と詩歌

青山英正［著］



前近代以来継承された伝統文芸としての和歌、そして明治十年代に欧米詩の模倣から始まった新体詩の展開を、前近代から近代へと続く史的展開のなかに位置づけ、政治史・社会史・文化史など複合的な視点から社会的行為としての文芸の営みを描き出す。

本体10,000円（＋税）・A5判上製・496頁・ISBN29196-1・2020年2月刊行

新彰義隊戦史 附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」

大藏八郎［編］



彰義隊の歴史、隊士をはじめ、関連人物の人間像、そして映画・演劇・絵画などにおける受容などを幅広く紹介。さらに生存者と子孫の証言や一次資料、関連史料を解析し事実と照合。写真、図版200点余を駆使して彰義隊を可視化した永久版！

本体7,000円（＋税）・B5判上製・666頁・ISBN22285-9・2020年11月刊行

「本読み」の民俗誌 交叉する文字と語り

川島秀一［著］



宗教的な講や田の水引きの農作業など村人が集まる機会に、独特の節回しで本を読んで聞かせる人びと、ホンヨミ。三陸地方を中心に、ホンヨミに触れてきた人びとへの直接の取材から浮かび上がる民俗社会を描き出す。

本体3,500円（＋税）・四六判上製・320頁・ISBN23081-6・2020年6月刊行

渋沢敬三とアチック・ミューゼアム

知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷

加藤幸治［著］



私設博物館兼研究所「アチック・ミューゼアム」を開設した渋沢と、そこに集まった仲間たちの営為・思想から、人文学本来のかたちを体現する、学問を紐帯とした共同体の可能性と文化創造の在り方を探る。

本体3,500円（＋税）・四六判並製・364頁・ISBN22263-7・2020年1月刊行

司書のお仕事2 【ライブラリーぶっくす】

本との出会いを届けます

大橋崇行［著］　小曽川真貴［監修］



読めばわかる、司書の世界！！　司書という職業の日常を、分かりやすいストーリー形式で解説。「除架と除籍」「行政支援レファレンス」等…、専門用語や業務を現役の司書が解説。各章末には仕事にまつわるコラムを附す。第1巻は好評重版出来！

本体1,800円（＋税）・四六判並製・208頁・ISBN20075-8・2020年11月刊行

荒れ野の六十年 東アジア世界の歴史地政学

與那覇潤［著］



東アジア世界が抱える摩擦の根源へ、古典と最新研究の双方を対照した先に見える新しい共存の地平とは。不毛な論争に終止符を打つ、気鋭の歴史学者による最後の論文集。

本体3,200円（＋税）・四六判上製・392頁・ISBN22264-4・2020年1月刊行

日本画の所在 東アジアの視点から

北澤憲昭・古田亮［編］

「日本画」はどこから来たのだろうか。そして、これからどこへ行くのだろうか…。〈歴史〉〈領域〉〈表現〉という３つの視点から、東アジアという場における「日本画」の形成・展開の諸相を歴史的・文化的に把捉し、「日本画」の概念を未来へとひらく画期的成果。

本体6,500円（＋税）・A5判上製・320頁・ISBN27055-3・2020年4月刊行

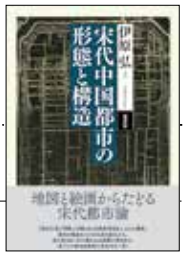


宋代中国都市の形態と構造

伊原弘［著］

宋代は中国の経済、文化が大きく発展した時代である。その結果、都市の構造や人々の生活も変化した。遺された貴重な地図や絵図などの史料を丹念に読み込み、唐と宋のあいだに横たわる画期を描き出す。

本体4,500円（＋税）・A5判上製・360頁・ISBN22069-5・2020年6月刊行



描かれたマカオ ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史

貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇［編］

アヘン戦争などによって世界史がおおきく揺れた18～19世紀のマカオを描く版画・水彩画・写真などから当時のマカオの光と影を読み解くとともに、その未来像を探る。フルカラー・全編日英併記。

本体22,000円（＋税）・A4判上製・238頁・ISBN22262-0・2020年2月刊行

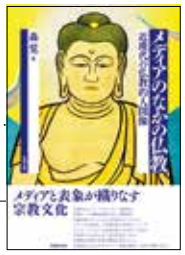


メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像

森覚［編］

メディアが生成した宗教表象を受容することで、人々は、どのような仏教文化を生み出したのか。社会的に生み出された文化的所産である仏教的人物像の性質と機能を明らかにし、仏教文化に見られるメディア表現の創造と受容の実態へ迫る。

本体7,500円（＋税）・A5判上製・352頁・ISBN21054-2・2020年5月刊行



上海におけるプロテスタント

現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷

村上志保［著］

国家によって宗教活動に対する様々な制限を受けながらも、現代を生きる中国プロテスタントたちの姿を、経済都市上海での豊富なフィールドワークを通して描く。急速な経済発展と社会の変化が宗教に与える影響を明らかにする。

本体6,000円（＋税）・A5判上製・320頁・ISBN21055-9・2020年5月刊行



ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ

【現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ2】

石田勇治・川喜田敦子［編］

ナチズムと両義的近代との関係、「民族共同体」の様態、レーベンスラウムや民族再生の含意、さらにポーランド、スイスの動きなど近年の歴史学が提示する最新の論点を取り上げる。司法訴追、補償、想起の文化などに注目して多面的に検討する。

本体6,000（＋税）・A5判上製・384頁・ISBN22513-3・2020年9月刊行



ドイツ市民社会の史的展開

【現代ドイツへの視座―歴史学的アプローチ3】

石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史［編］

「市民社会」に着目して、これが含意する意味内容の歴史的な変遷を追いながら、ドイツの国家と市民、国家と社会の関係がどのようなものであったかを検討する。そして、「市民社会」に関する日独比較の可能性も追究する。全３巻完結！

本体6,000（＋税）・A5判上製・368頁・ISBN22514-0・2020年9月刊行



ポストコロナ時代の東アジア 【アジア遊学253】

新しい世界の国家・宗教・日常

玄武岩・藤野陽平［編］

日本・台湾・韓国・中国・香港は危機にとう対応したか。都市封鎖や各種の自粛措置、メディア戦略、「新しい生活様式」等の各国の政策から、疫病除けの妖怪「アマビエ」の流行、各国の宗教対策まで、メディア・社会・宗教など多様な視点から比較検証。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・272頁・ISBN22719-9・2020年10月刊行



中世日本の茶と文化 【アジア遊学252】

生産・流通・消費をとおして

永井晋［編］

称名寺に伝来した平安から室町までの茶に関する文献史料、各地の美術工芸品や考古資料などの諸資料を丹念に紐解き、考古学・農業学・気候史・技術史・遺伝子学など様々な分野の視点なども交え、「茶の湯」・「茶道」成立以前の「中世の茶」をとらえ直す。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・240頁・ISBN22718-2・2020年9月刊行



仏教の東漸と西漸 【アジア遊学251】

荒見泰史［編］

さまざまな儀礼や経典、文学、図像を取り上げ、各時代の広い社会層における信仰・宗教の伝播と継承、衝突と融合の実態を東漸と西漸の双方向から考察し、新しい文化史を構築する。

本体2,800円（＋税）・　A5判並製・256頁・ISBN22717-5・2020年9月刊行



酔いの文化史 【アジア遊学250】

儀礼から病まで

伊藤信博［編］

醸造や酒宴の歴史から、食文化とのかかわり、文学・絵画における表象、アルコール依存症など現代的な問題まで、宗教的・社会的機能をもつ飲酒文化について、文学史・美術史・歴史学・食文化史など様々な分野から切り込む。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・256頁・ISBN22716-8・2020年8月刊行



漢学とは何か 【アジア遊学249】

漢唐および清中後期の学術世界

川原秀城［編］

現代の人文学の領域を大きく凌駕する漢学のパースペクティブは、どのようにその対象を広げ、如何に事象を記述しようとしたのか。漢唐および清中後期の学術を多角的に分析し、歴代漢学の総覧を通して学的特徴とその限界について考察する。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・256頁・ISBN22715-1・2020年7月刊行



明治が歴史になったとき 【アジア遊学248】

史学史としての大久保利謙

佐藤雄基［編］

政治家、官僚、軍人などの個人文書を収集・公開する国立国会図書館憲政資料室の創設に関わり、数々の史料編纂等、研究のための整備に尽力した大久保利謙。その足跡を史学史・史料論・蔵書論の観点を交え検証し、日本近代史研究の誕生の瞬間を描く。

本体2,800円（＋税）・A5判並製・240頁・ISBN22714-4・2020年6月刊行



書物学 第18巻　蔵書はめぐる

海外図書館の日本古典籍コレクション

編集部［編］

欧米の著名なコレクションから、ハワイ大学、ホノルル美術館、アメリカ議会図書館、UCバークレー、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学の特色ある蔵書を紹介。書物を集め、愛でた人々、海を越えて伝えられた蔵書に秘められたドラマを描き出す。

本体1,800円（＋税）・B5判並製・120頁・ISBN20718-4・2019年7月刊行

